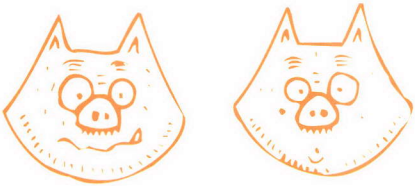
ポプラポケット文庫



ポプラ社

# みなさんとともに明るい未来を

一九七六年、ポプラ社は日本の未来ある少年少女のみなさんのしなやかな成長を希(ねが)って、「ポプラ社文庫」を刊行しました。

二十世紀から二十一世紀へ――この世紀に亘(わた)る激動の三十年間に、ポプラ社文庫は、みなさんの圧倒的な支持をいただき、発行された本は、八五一点。刊行された本は、何と四千万冊に及びました。このことはみなさんが一生懸命(いっしょうけんめい)本を読んでくださったという証左(あかし)でもあります。

しかしこの三十年間に世界はもとよりみなさんをとりまく状況も一変しました。地球温暖化による環境破壊、大地震、大津波、それに悲しい戦争もありました。多くの若いみなさんのかけがえのない生命も無惨(むざん)にうばわれました。そしていまだに続く、戦争や無差別テロ、病気や飢餓(きが)……、ほんとうに悲しいことばかりです。

でも決してあきらめてはいけないのです。誰もがさわやかに明るく生きられる社会を、世界をつくり得る、限りない知恵と勇気がみなさんにはあるのですから。

――若者が本を読まない国に未来はないと言います。

創立六十周年を迎えんとするこの年に、ポプラ社は新たに強力な執筆者(しっぴつしゃ)と志(こころざし)を同じくするすべての関係者のご支援をいただき、「ポプラポケット文庫」を創刊いたします。

二〇〇五年十月

株式会社ポプラ社

**作・絵　原ゆたか（はら　ゆたか）**

1953年、熊本県に生まれる。1974年KFSコンテスト・講談社児童図書部門賞受賞。主な作品に、『ちいさなもり』「プカプカチョコレー島」シリーズ、「よわむしおばけ」シリーズ、「ほうれんそうマン」シリーズ、「かいけつゾロリ」シリーズ、「おばけのユータくん」シリーズ、「魔法のおみやげ」シリーズなどがある。

このお話の主人公かいけつゾロリは「ほうれんそうマン」シリーズの著者みづしま志穂氏の御諒解のもとにおなじキャラクターで新たに原ゆたか氏が創作したものです。

---

**収録作品について**

『かいけつゾロリのママだーいすき』（ポプラ社　1991.8）
『かいけつゾロリの大かいじゅう』（ポプラ社　1992.1）

---

2006年10月　第1刷　　2019年6月　第11刷

**ポプラポケット文庫050-5**

ゾロリ2in1　**かいけつゾロリのママだーいすき 大かいじゅう**

作・絵　**原ゆたか**
発行者　千葉 均
発行所　株式会社ポプラ社
〒102-8519 東京都千代田区麹町4-2-6　8・9F
電話（編集）03-5877-8108　（営業）03-5877-8109
ホームページ　www.poplar.co.jp
印刷所　瞬報社写真印刷株式会社
製本所　大和製本株式会社
Designed by 濱田悦裕

©原ゆたか　2006年　Printed in Japan
ISBN978-4-591-09463-1　N.D.C.913　182p　18cm

落丁本・乱丁本はお取り替えいたします。
小社宛にご連絡下さい。電話0120-666-553
受付時間は月～金曜日、9:00～17:00（祝日・休日は除く）

読者の皆さまからのお便りをお待ちしております。
いただいたお便りは、著者へお渡しいたします。
本書のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。本書を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することは、たとえ個人や家庭内での利用であっても著作権法上認められておりません。
P8033023

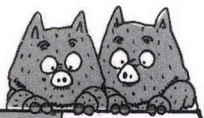
# かいけつゾロリの大かいじゅう

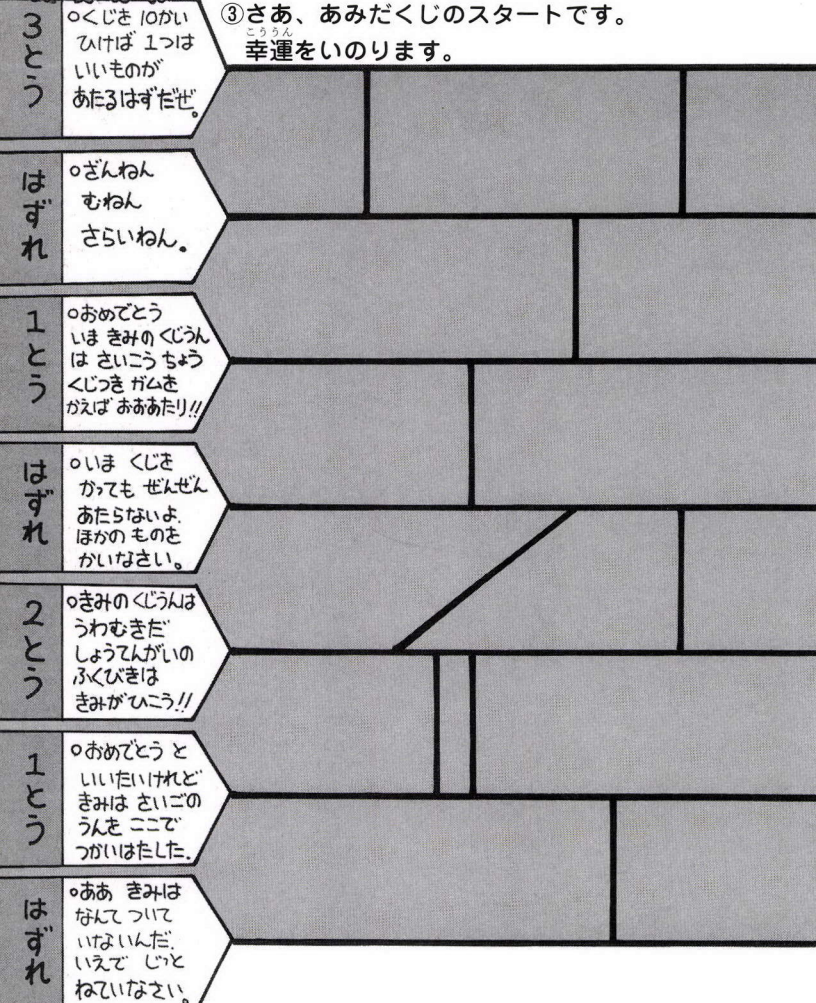
## ○きみのくじ運は

①右はじの宝くじを１まい、えらんでください。

②つぎに、えんぴつでこのあみだのすきなところに、３本だけ線をかきこみます。

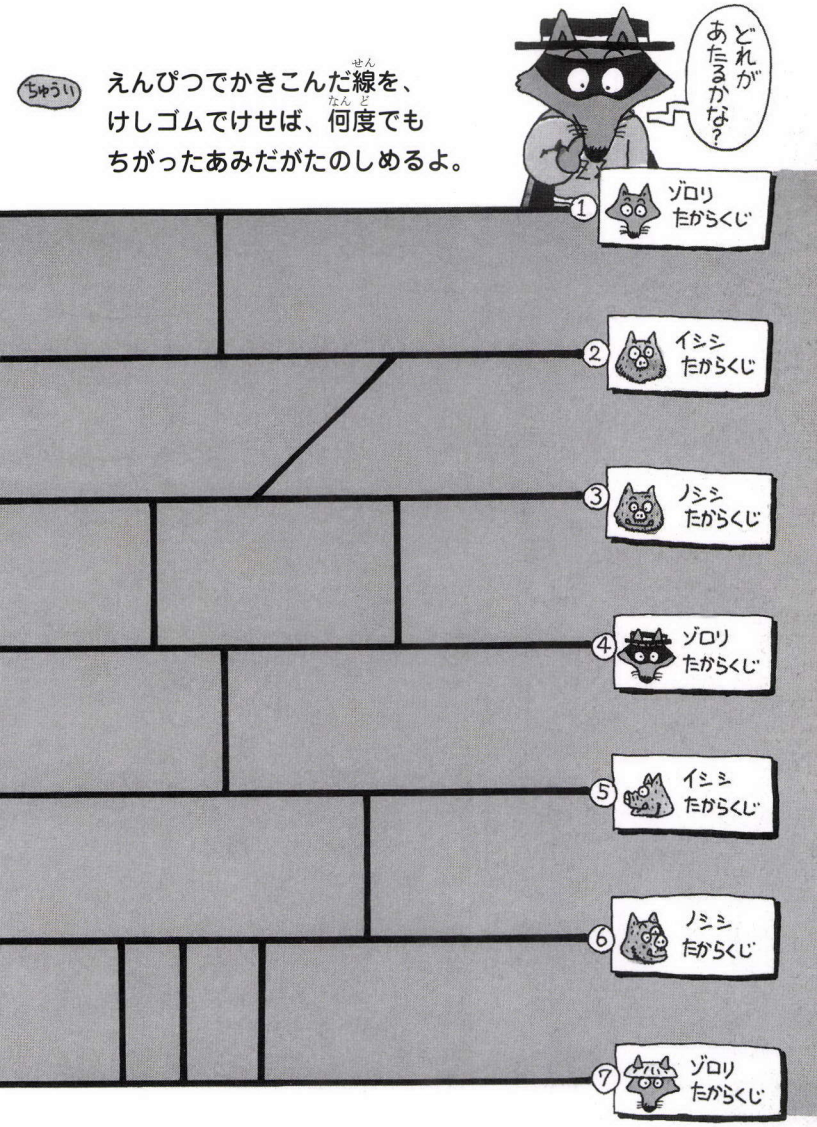
③さあ、あみだくじのスタートです。
幸運をいのります。





# ☆おまけページ・2

ちゅうい　えんぴつでかきこんだ線を、
けしゴムでけせば、何度でも
ちがったあみだがたのしめるよ。



いやいや、らくしてたてたお城など、しゃぼん玉のようにきえちまうのさ。今度こそ、自分の力で、ゾロリ城を手にいれてやるぜ。そうしなきゃ、きっと天国のママだって、よろこびゃしないぜ。
たからくじ
こりゃなんじゃ やっぱり たからくじ かってるじゃないか
まあ りっぱな セリフが いえる ようになって ゾロリちゃん おとなに なってきたわ
ゾロリのママ

ゾロリ城、やっと
たてられたのに
ざんねんだっただね。
ねえ、
宝くじもう一まい、
買ってみようか。
また、あたるかも
しんねえだよ。

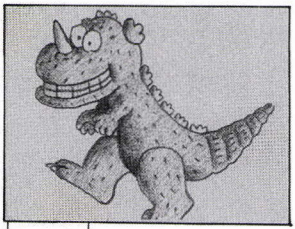
# つぎの日のしんぶんです。

## しんぶんし 号外

### 大かいじゅう きえさる!!

◎ゴミすてばから あらわれた かいじゅうは その日のうちに とつぜん すがたを けしました。けいさつで ゆくえを さがしていますが、どこへ いったのかは、いまだ わかって おりません。

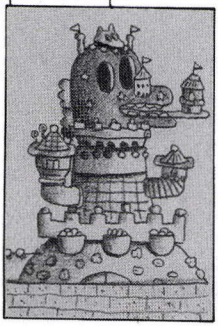
ともかく 町は へいわを とりもどし、ひなんして いた ひとびとも ぞくぞくと じぶんの いえへ もどり、あとかたづけに おわれています。



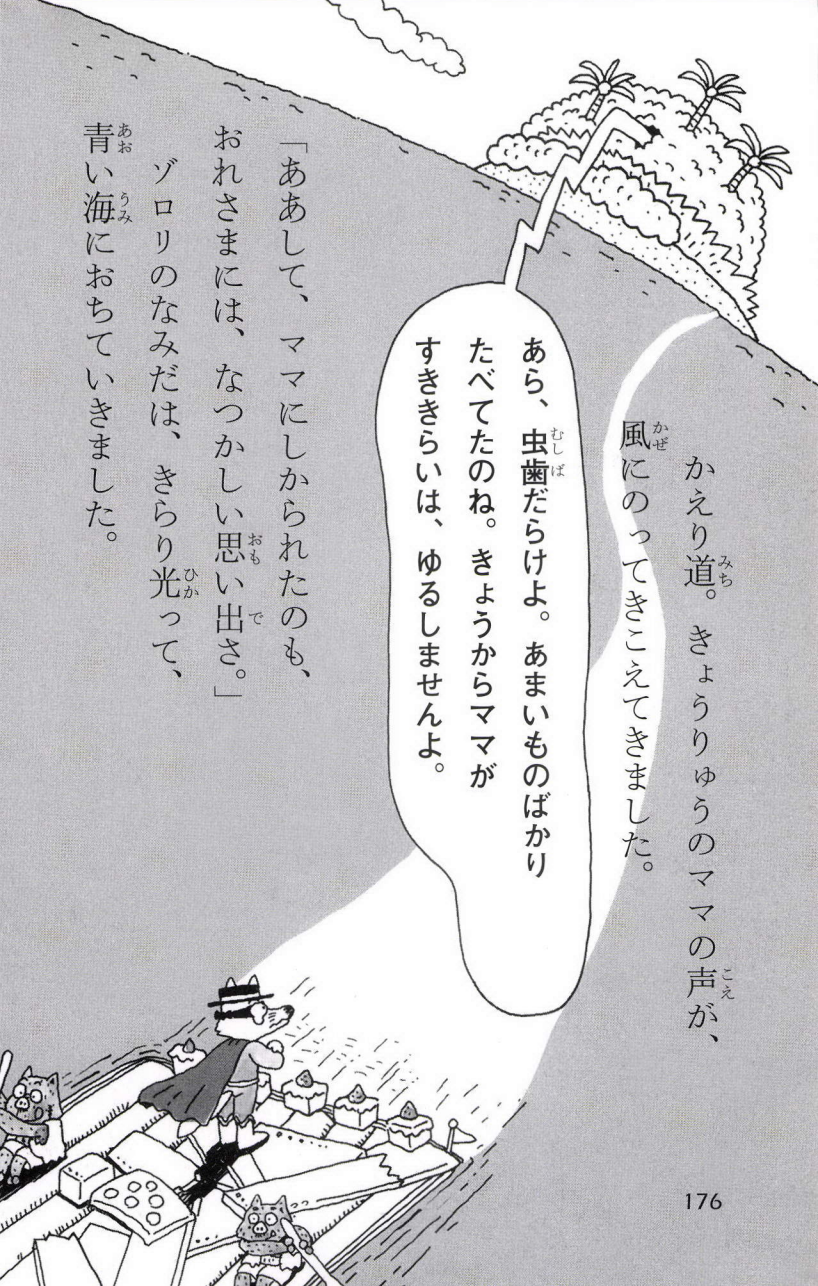
きのう あらわれた 大かいじゅう

### ゾロリじょう こわれる

◎あの おそろしい かいじゅうも たった ひとつ よいことを していきました。それは、ゾロリじょうを こわして いったことです。ゾロリじょうの げひんさは 町の かんきょうに あわないと、もんだいに なっており、じゅうみんの はんたいうんどうも はじまろうとしていた やさきの できごとで、やっかいなものが なくなったと、町のひとたちは おおよろこびです。



げひんな たてもの ゾロリじょう


かえり道。きょうりゅうのママの声が、
風にのってきこえてきました。
あら、虫歯だらけよ。あまいものばかり
たべてたのね。きょうからママが
すききらいは、ゆるしませんよ。
「ああして、ママにしかられたのも、
おれさまには、なつかしい思い出さ。」
ゾロリのなみだは、きらり光って、
青い海におちていきました。

かいじゅうの子どもは、
ママだけじゃなく、
お兄ちゃんまでも
いっぺんにできて、
大よろこびです。
ほら、もういっしょに
あそんでいますよ。

「ゾロリせんせ、よかっただね。」

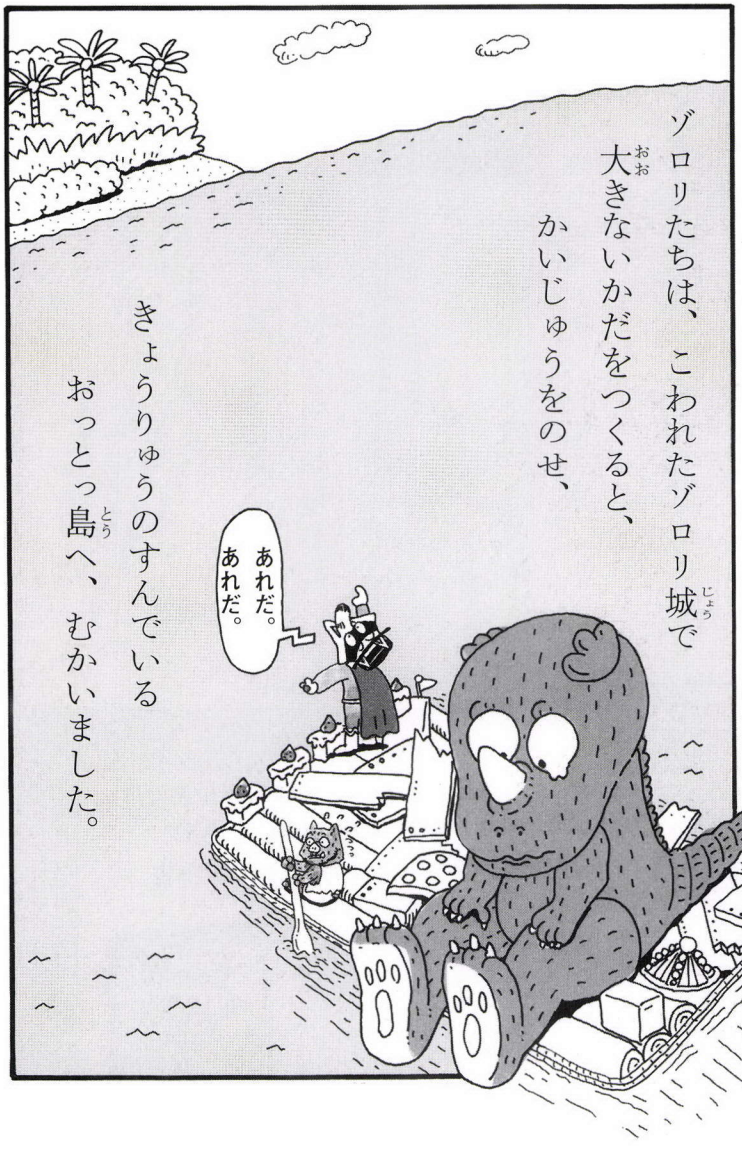
「ああ、おれさまもこれでひと安心さ。」

ゾロリがさっそくかいじゅうの
ことをそうだんしてみると、

なーんだ、そんなことなの。わたしにも
こどもがいるけど、ひとりそだてるのも、
ふたりそだてるのも、おなじことよ。
わたしに、どーんとまかせなさい。

きょうりゅうのママは
からだも心(こころ)も大(おお)きいのでした。

「まあ、ゾロリさんじゃないの。ひさしぶりね――。」
きょうりゅうのママは、ゾロリたちをあたたかくむかえてくれました。




ゾロリたちは、こわれたゾロリ城で
大きないかだをつくると、
かいじゅうをのせ、
きょうりゅうのすんでいる
おっとっ島へ、むかいました。

「大きなこどものことは、
きょうりゅうのママにそうだん
してみれば、きっといいちえを
かしてくれるかもしれないぜ。」

「そうだ、あのママは、とても
やさしいママだったもんな。」

## おしらせ

☆きょうりゅうの ママを しらない どくしゃの みなさんへ

- ゾロリは『かいけつゾロリの 大きょうりゅう』という本で きょうりゅうのママの ために さらわれた ぼうやを たすけだして あげたのです。
よんで いない人は よんで みてね。
きっと おもしろいよ。

☆きょうりゅうの ママを している どくしゃの みなさんへ

- よんでくれて どうも ありがとう。

おらたちが、ママがわりになって、そだてるってんですか？

おら、あんなきょうりゅうみたいなの、おんぶするのやだな。

きょうりゅうだって？

ゾロリは、むかしきょうりゅうのママをたすけたことを思いだしました。

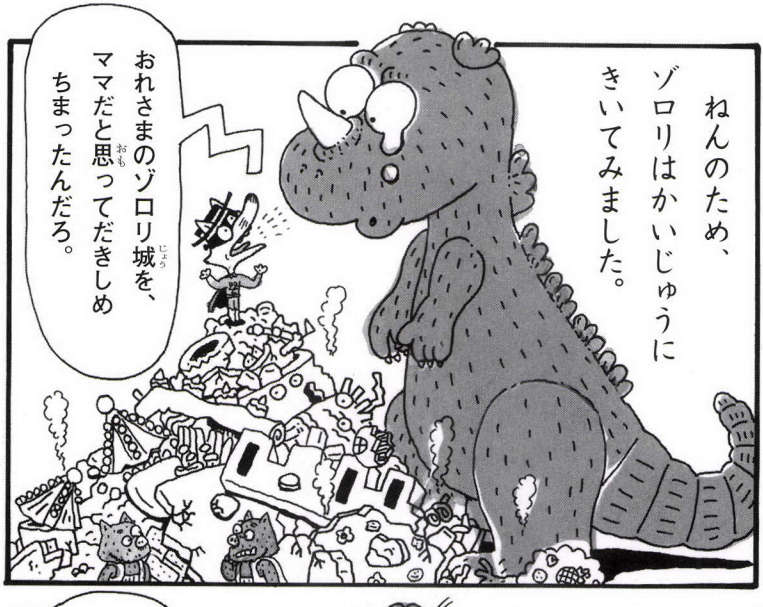
きょうりゅうのママとぼうや

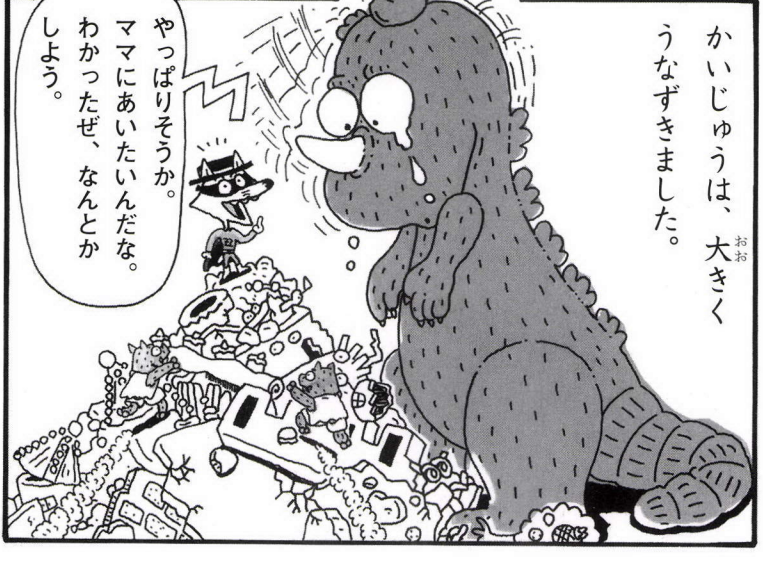
なんとかするったって、ゾロリせんせ、あいつのママは……

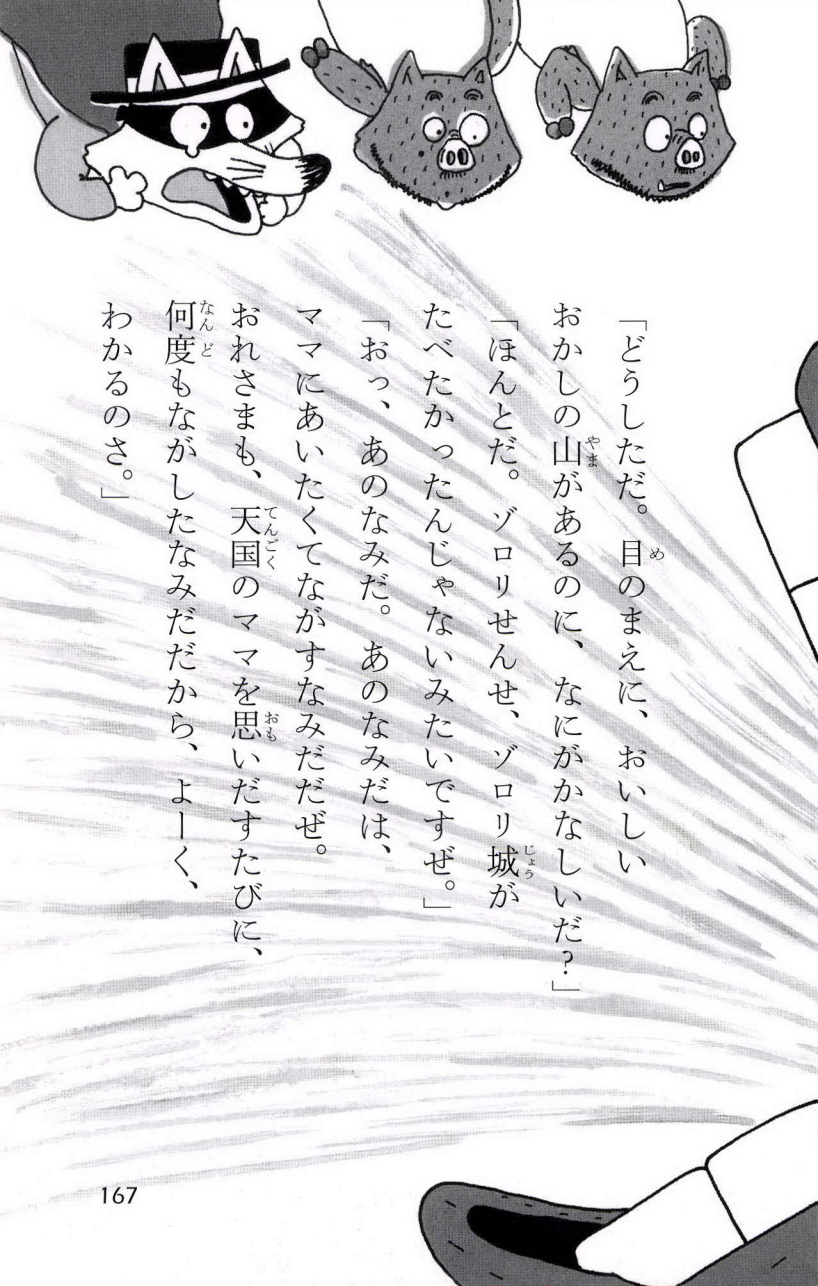
五万年まえにぜつめつしたって、テレビでいってましたぜ。

だけどなあ、生まれたばかりで、ママがいないなんて、おれさまより何十倍もかわいそうなんだぜ、グスッ。これをおれさまが、しらんぷりできると思うのか？

そんじゃ……


ねんのため、ゾロリはかいじゅうにきいてみました。
おれさまのゾロリ城を、ママだと思ってだきしめちまったんだろ。


かいじゅうは、大きくうなずきました。
やっぱりそうか。ママにあいたいんだな。わかったぜ、なんとかしよう。



「どうしただ。目のまえに、おいしい
おかしの山があるのに、なにがかなしいだ？」
「ほんとだ。ゾロリせんせ、ゾロリ城が
たべたかったんじゃないみたいですぜ。」
「おっ、あのなみだ。あのなみだは、
ママにあいたくてながすなみだだぜ。
おれさまも、天国のママを思いだすたびに、
何度もながしたなみだだから、よーく、
わかるのさ。」

「ウワーン、マンマ――！」
かいじゅうは大つぶの
なみだをぽろぽろと
こぼしながら、
泣きだした
のです。

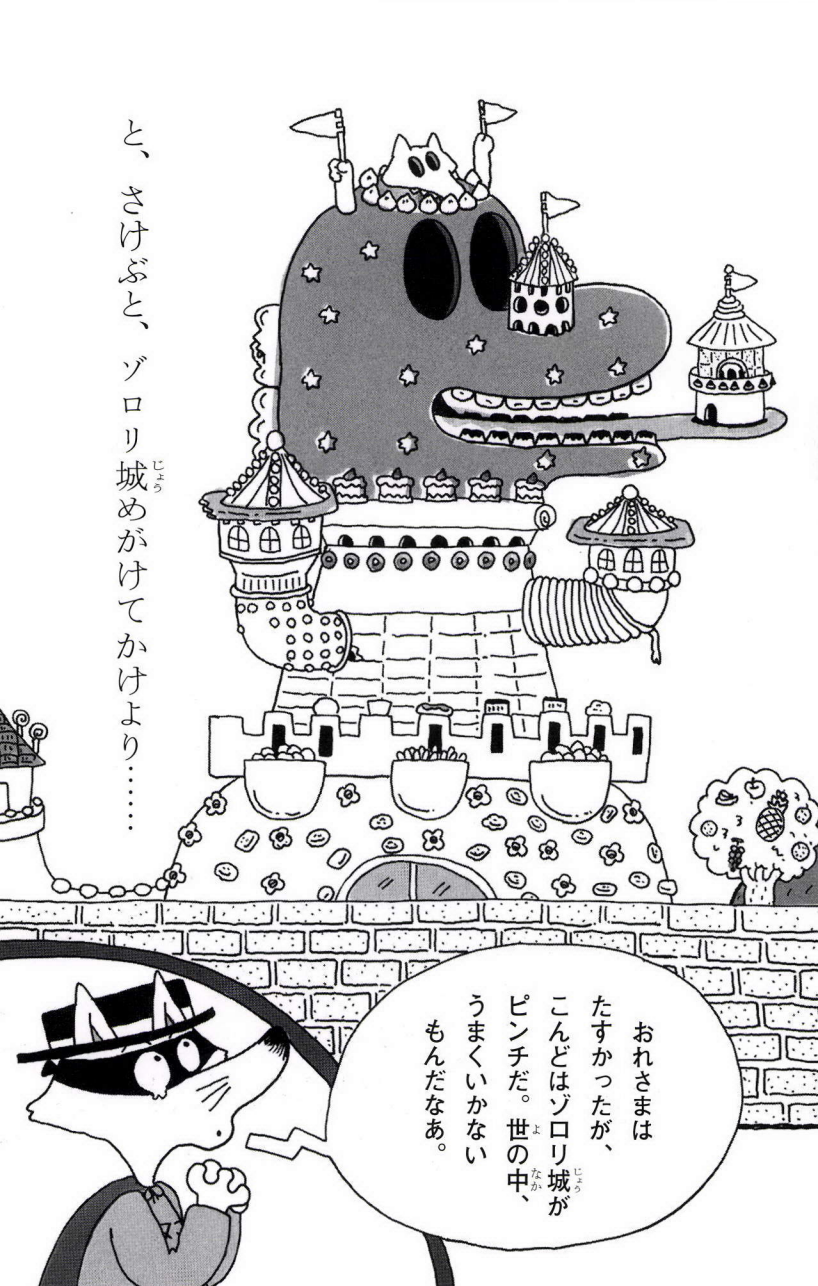
かいじゅうにだきしめられたゾロリ城は、ひとたまりもありません。ガラガラと音をたてて、足もとにくずれおちていきます。

「やれやれ、やっぱりゾロリ城は、一日だけのゆめだったか。」

ゾロリがつぶやきました。

そのとき……

……思(おも)いきり、だきしめました。


と、さけぶと、ゾロリ城めがけてかけより……
おれさまはたすかったが、こんどはゾロリ城がピンチだ。世の中、うまくいかないもんだなあ。

もちろん、かいじゅうにこのみりょく的な
ゾロリ城が、目にはいらないはずはありません。

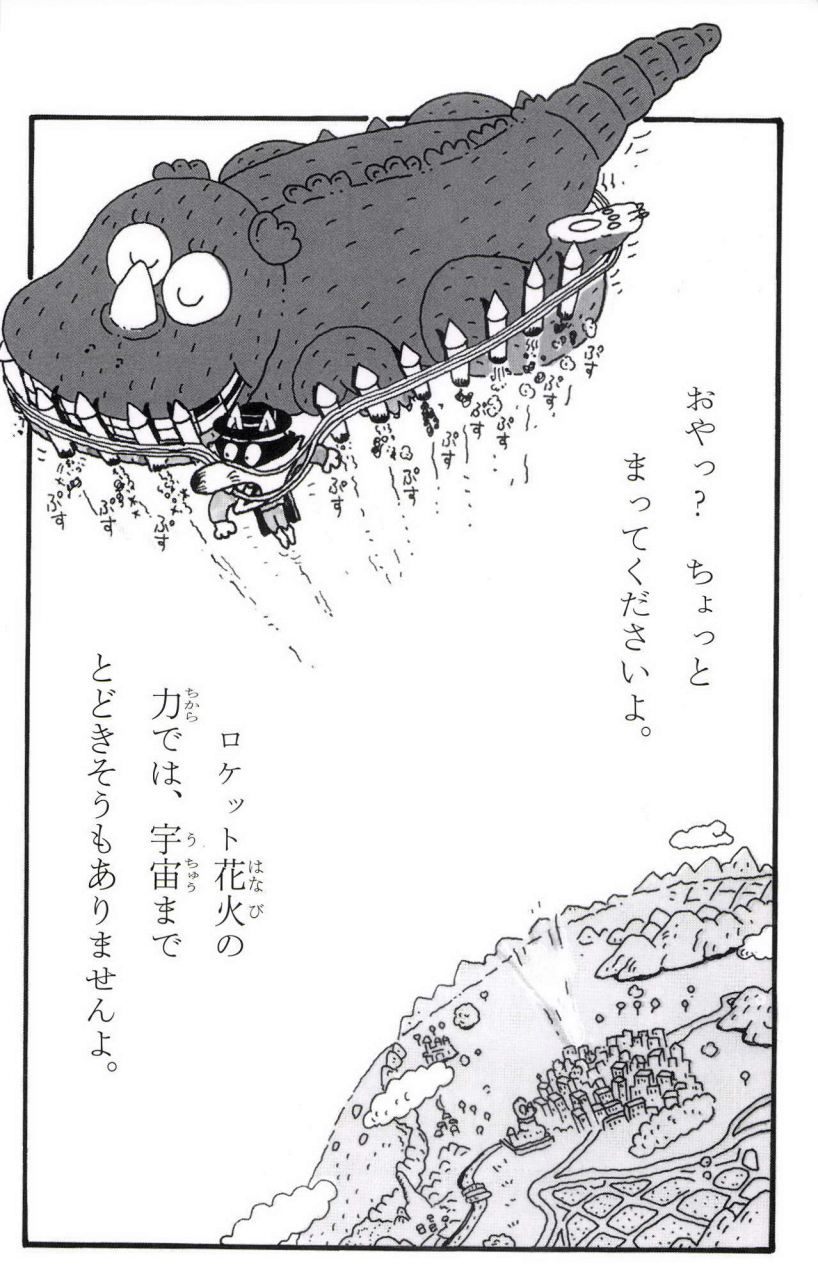
さらに運のわるいことには、地面にげきとつしたショックで、かいじゅうは目をさましてしまったのです。

ああ、なんということでしょう。おちてきたところは、よりによって、ゾロリ城の目のまえ。

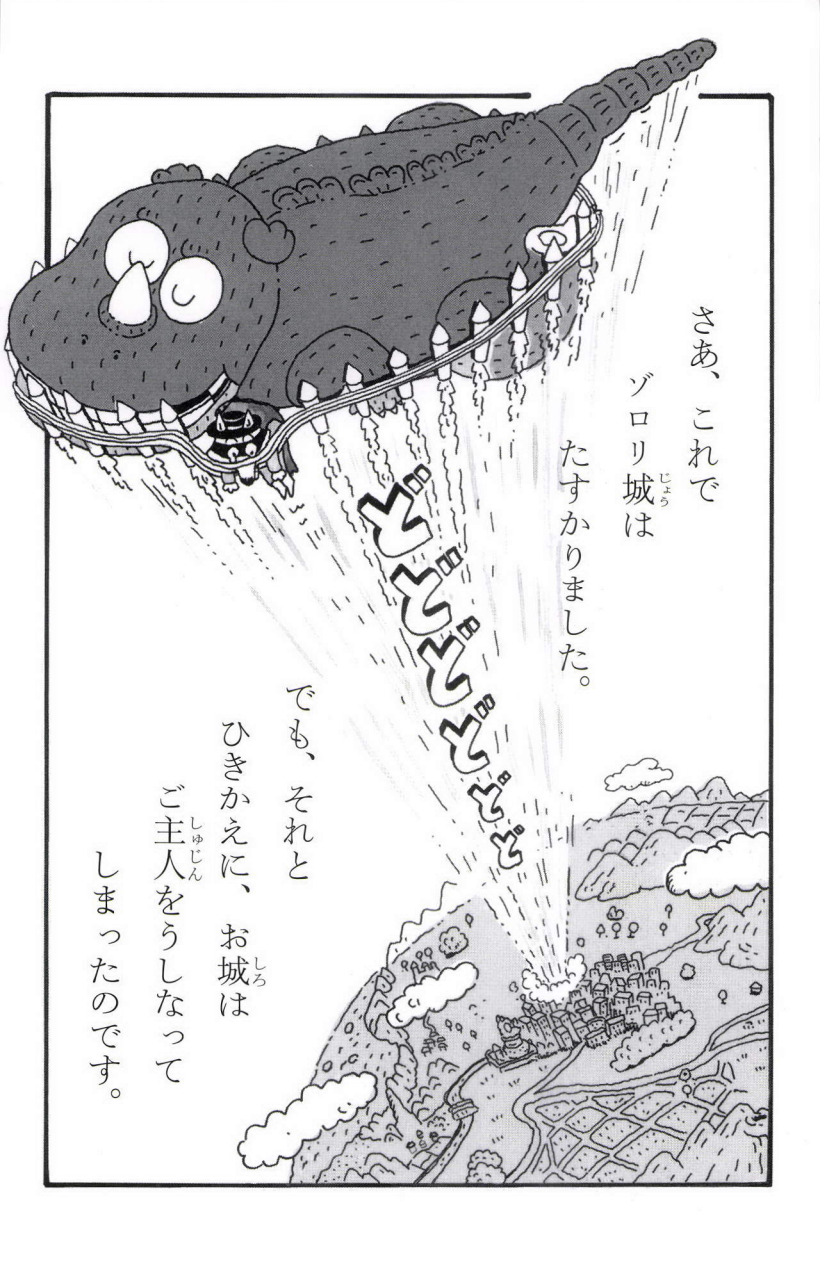
いきおいよく
地面へげきとつ
しました。

ロケット花火がもえつきると、
かいじゅうとゾロリは、
地上へむかって
まっさかさま。

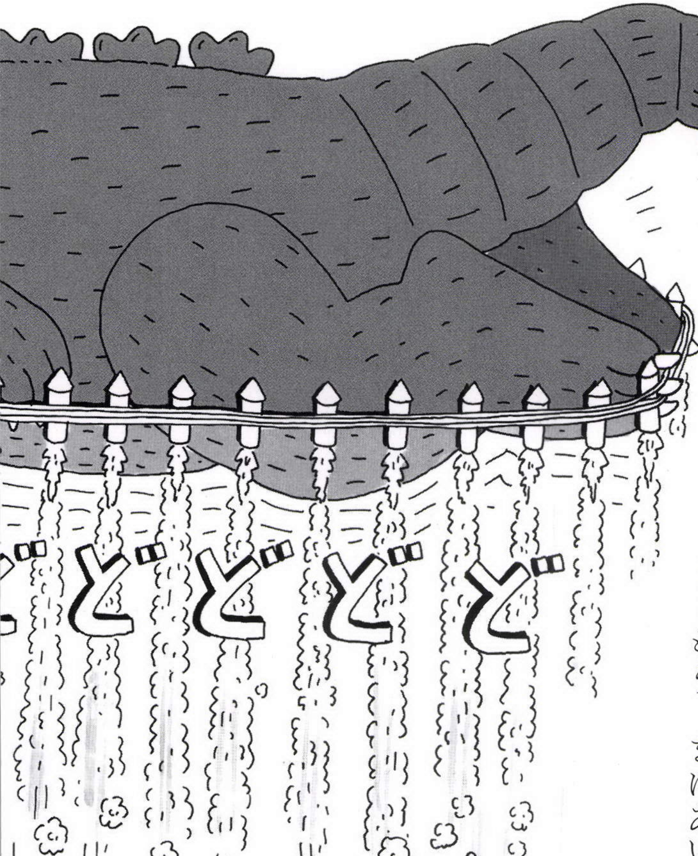
# イシシとノシシの
# おかしのおしろ


おやっ？　ちょっと
まってくださいよ。
ぷす
ぷす
ぷす
ぷす
ぷす
ぷす
ぷす
ぷす
ぷす
ぷす
ロケット花火の
力では、宇宙まで
とどきそうもありませんよ。

あーあ、ゾロリせんせ、いっちゃっただよ。
まだ、ページものこってるというのに、こまっただなあ。こうなったら、おらたちが主役をひきつぐしかないだな。


さあ、これで
ゾロリ城は
たすかりました。
ドドドドドドドドド
でも、それと
ひきかえに、お城は
ご主人をうしなって
しまったのです。

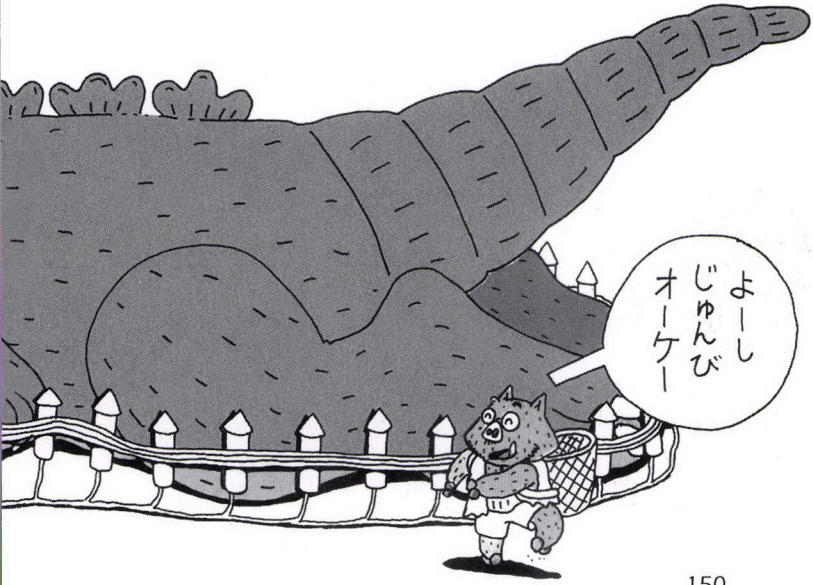
ゾロリはかいじゅうと
ともに、空高くのぼって
いくのでした。



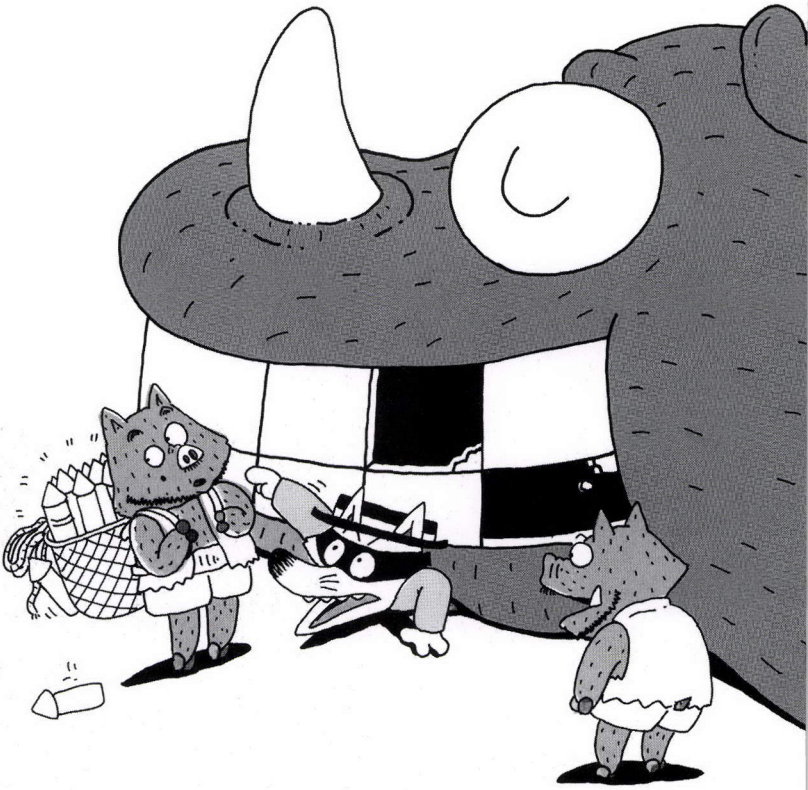

……もう、まにあいません。

ゾロリは、あわてて
ストップをかけましたが……

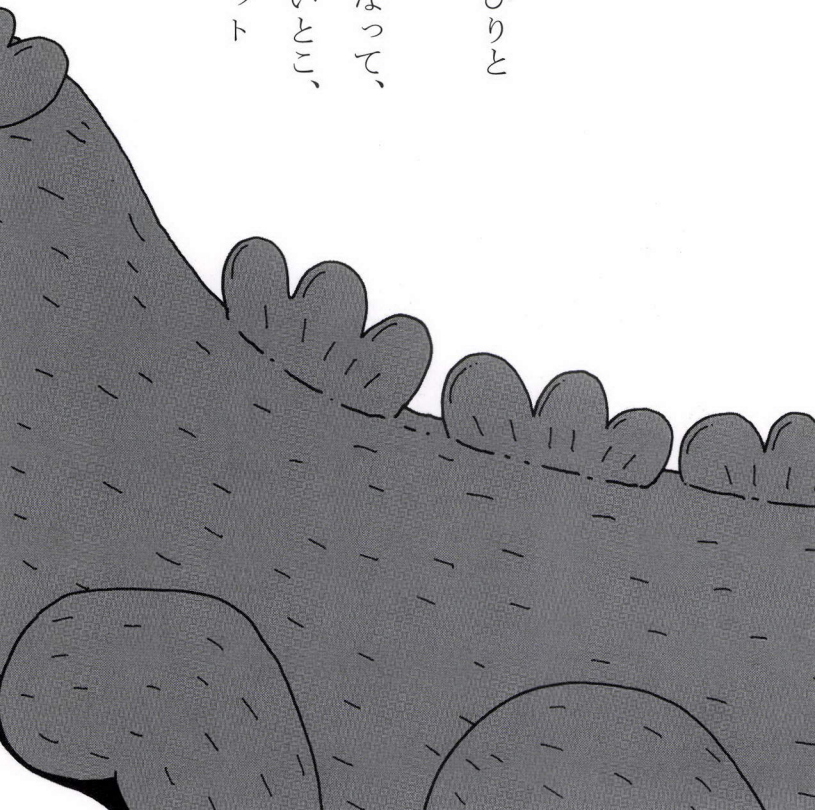
イシシが、大あわてで
ロケット花火をかいじゅう
にまきつけると、さっそく
ノシシは、ライターで火を
つけます。



花火で宇宙へとばし、
おれさまをたすけ
だしてくれ。重くて
たまらんぜ。たのむ。
いそいでくれー。」

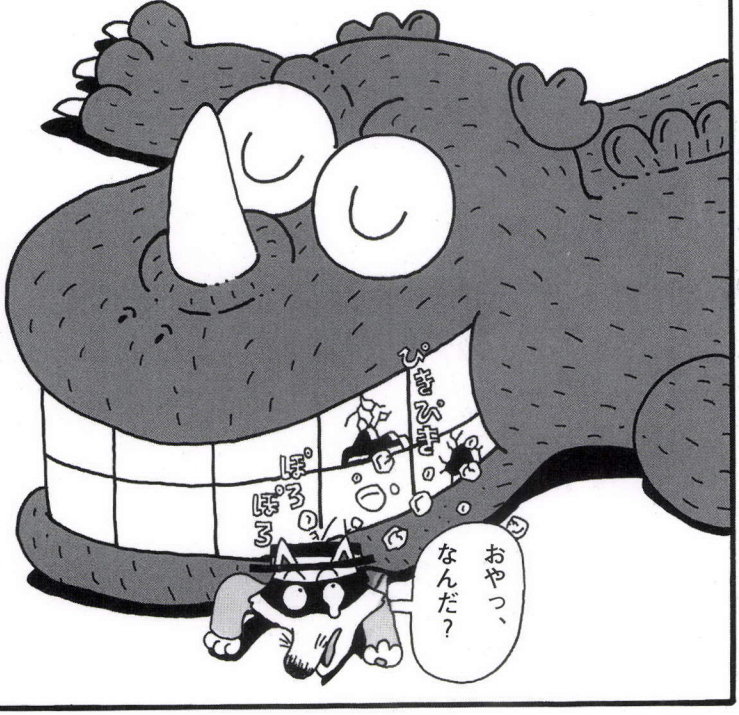


「あっ、ゾロリせんせ、
そんなところで、のんびりと
なにしてるだ？」
「ばかもの、下じきになって、
うごけないんだ。はやいとこ、
このかいじゅうをロケット

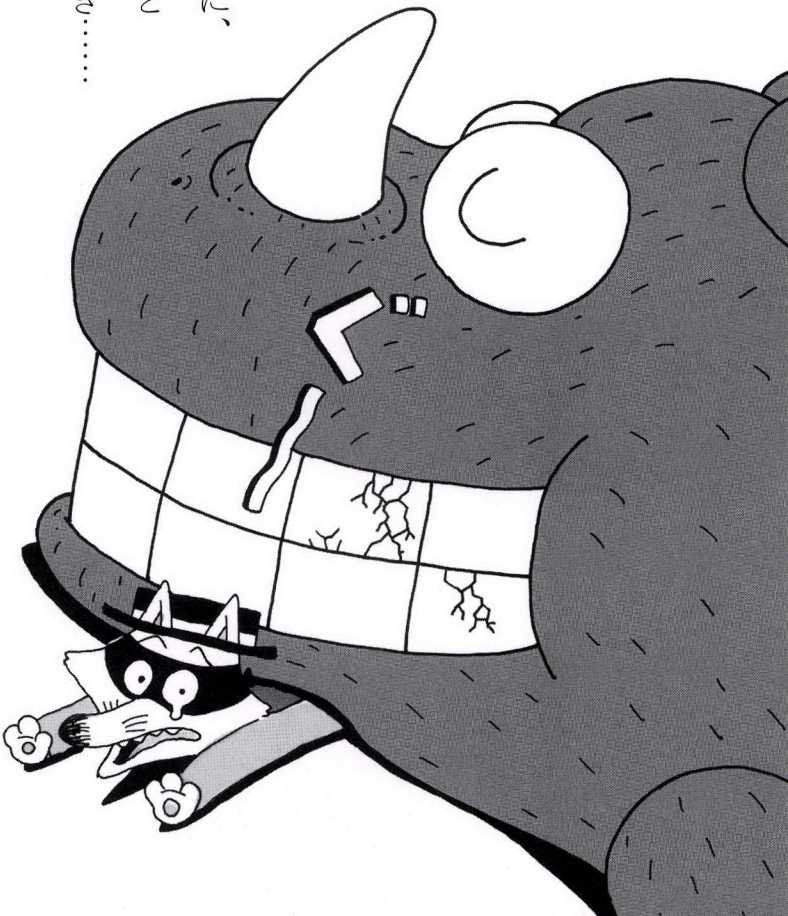


イシシとノシシが、はいだしてきたではありませんか。
こいつ、あまいものばっかりたべてるから、歯がよわくなってるだな。
かたやきせんべいをかんだとき、歯にひびがはいっただよ。
おーっ、イシシ、ノシシ、生きててくれたか—。

……ひびの
はいった
かいじゅうの
歯(は)が、ぼろぼろと
かけはじめ――



ゾロリのほおに、
なみだがぽろりと
こぼれおちたとき……



なんて、ついていないのでしょう。

ゾロリは、かいじゅうが目をさますまで、身うごきひとつできません。

「このままじゃ、イシシ、ノシシも
たすけられやしない。それどころか、
こいつがおきたときにゃ、おれさまの
いのちだってどうなるか、わかった
もんじゃないぜ。グッスン。
ママー、たすけてー。」

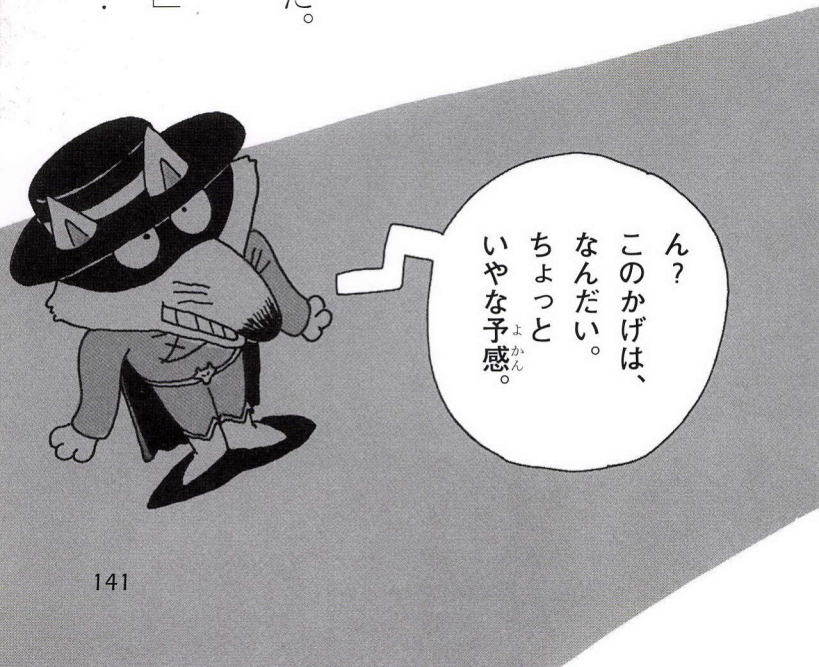
かいじゅうは、
ゾロリの上に
たおれて
きました。そして
そのままぐっすり、
ねむりこんだのです。

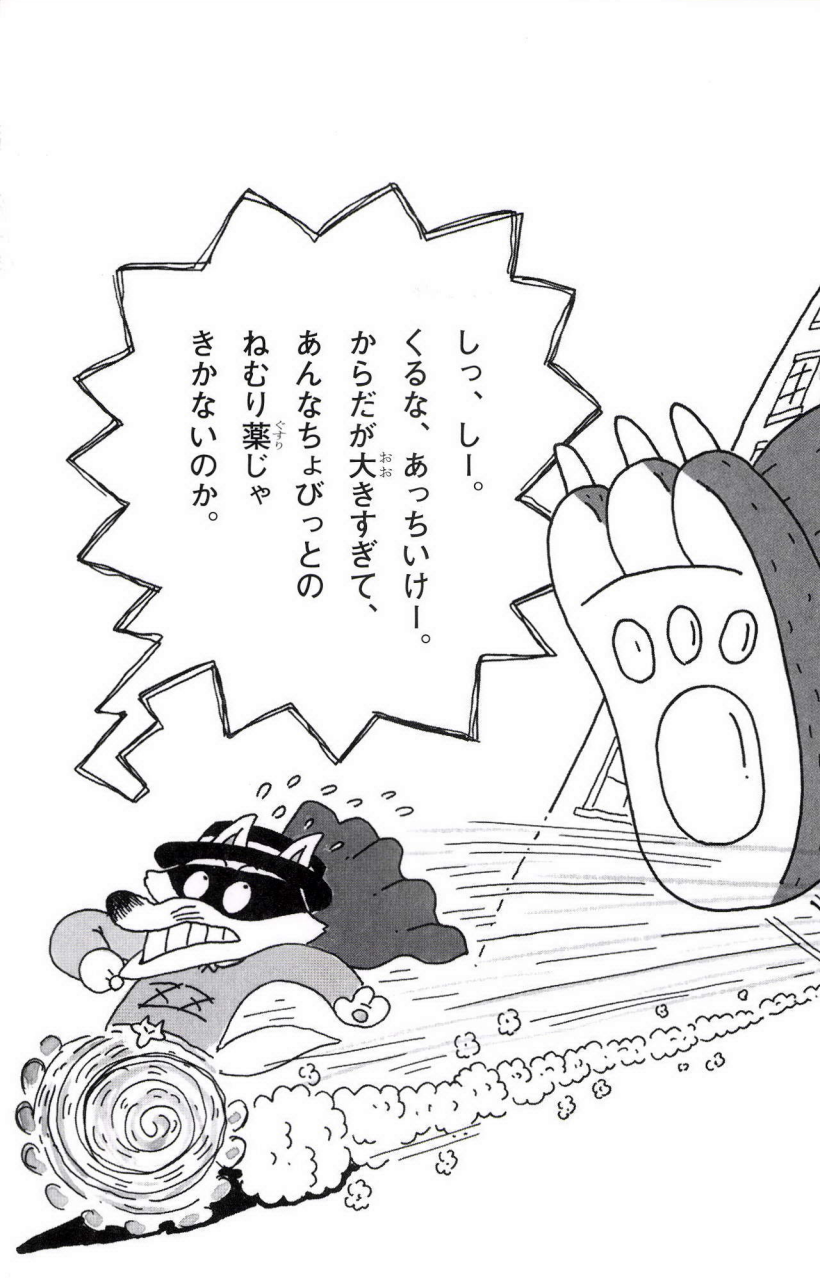
ずずずずずーん

いやいや、そうでもなさそうですよ。しばらくすると、大かいじゅうは、きゅうに立ちどまり、しずかになりました。

「おっ、ねむり薬がやっとききはじめたか。たすかったぜ。」

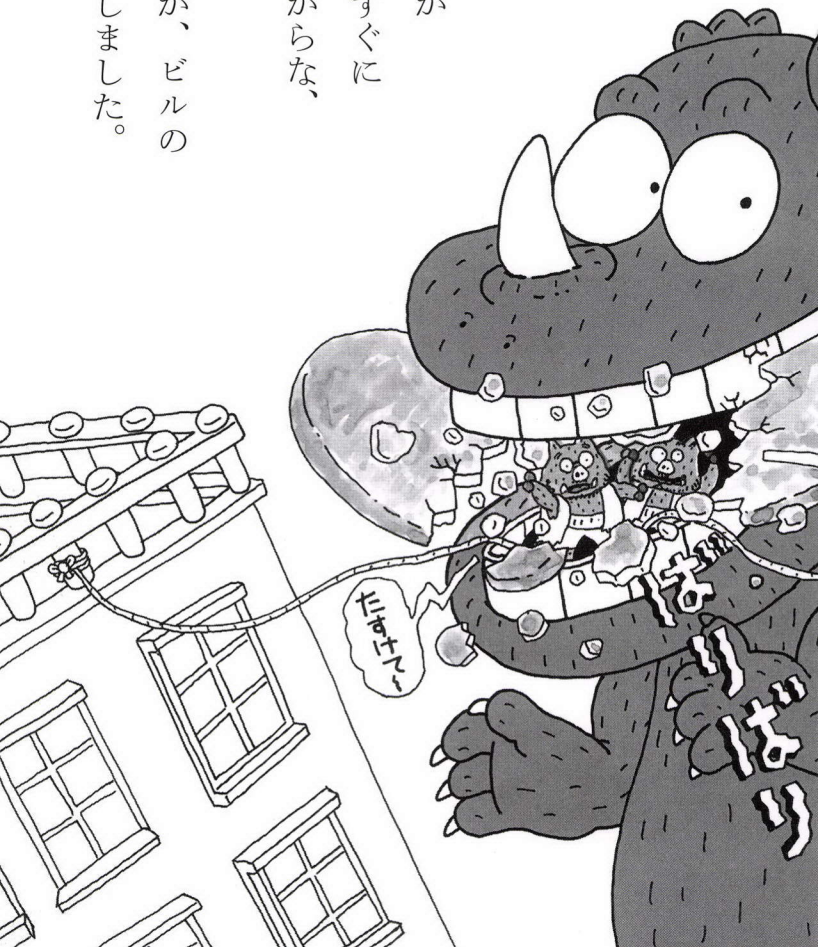
ほっとしたのも、つかのま……



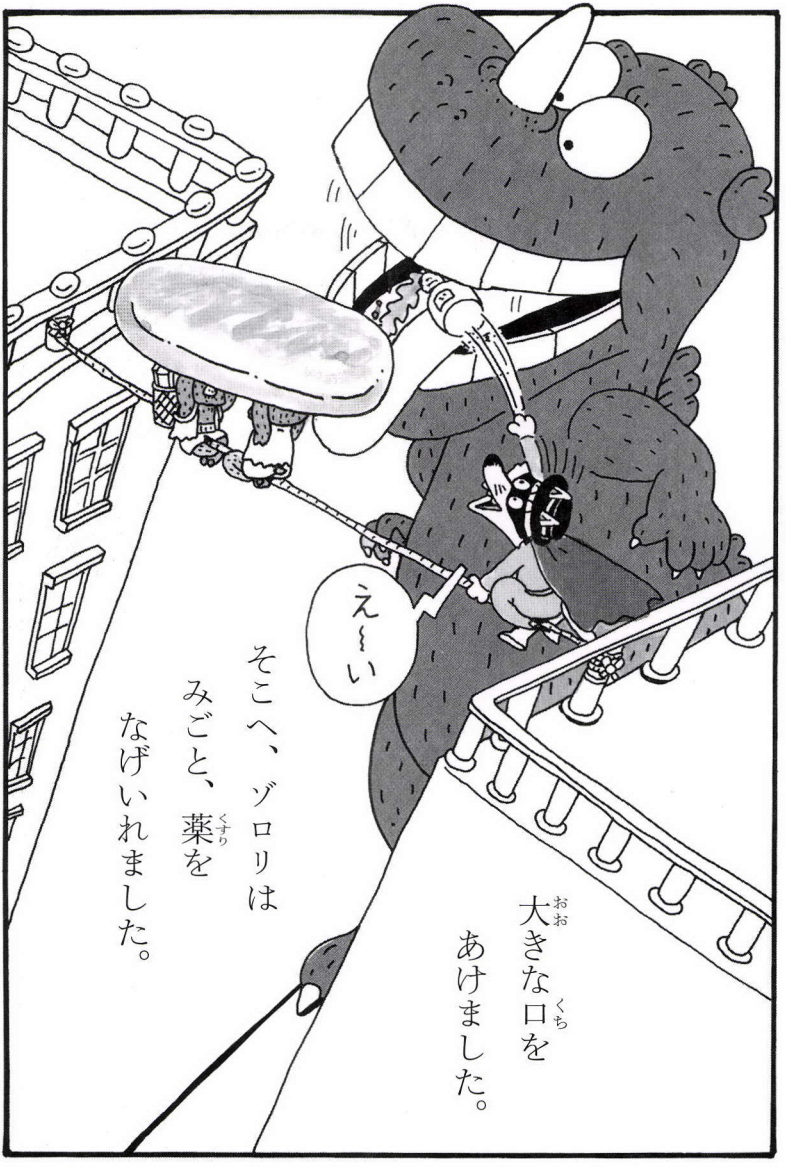

しっ、しー。
くるな、あっちいけー。
からだが大きすぎて、
あんなちょびっとの
ねむり薬じゃ
きかないのか。

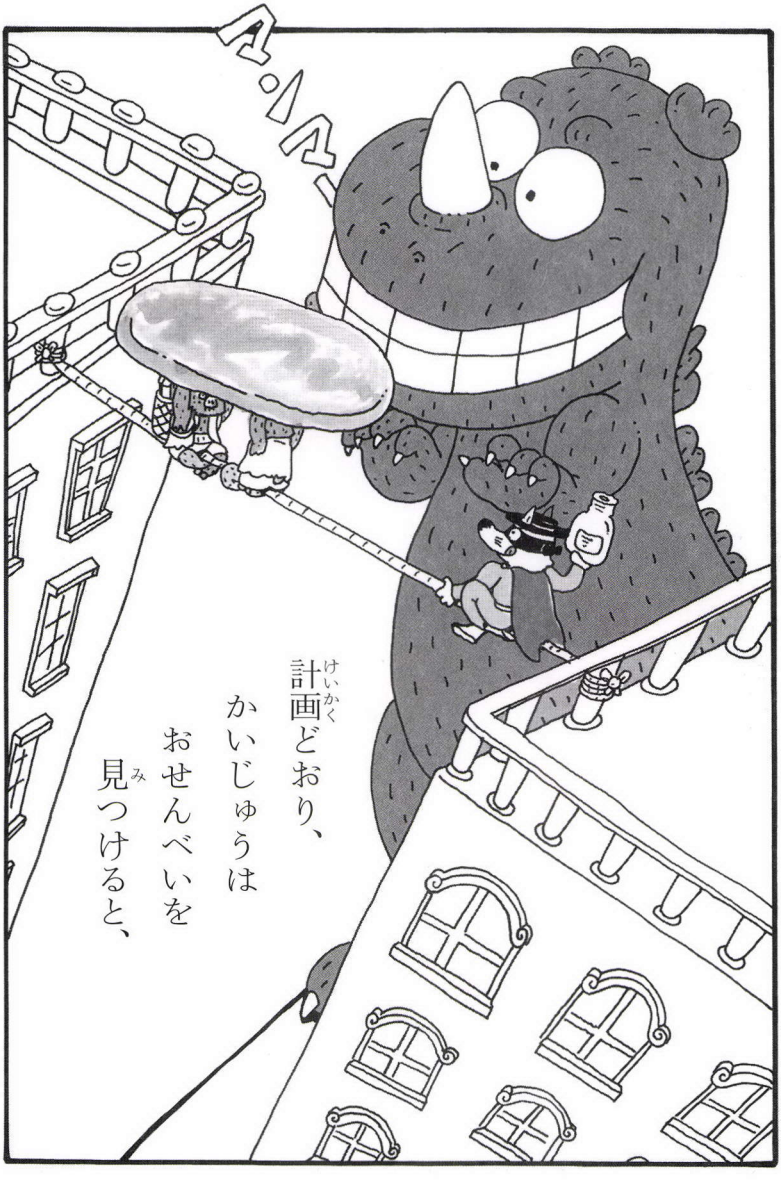
しかし、かいじゅうはねむるけはいも見せません。それどころか、ゾロリを見つけると、おいかけはじめたではありませんか。

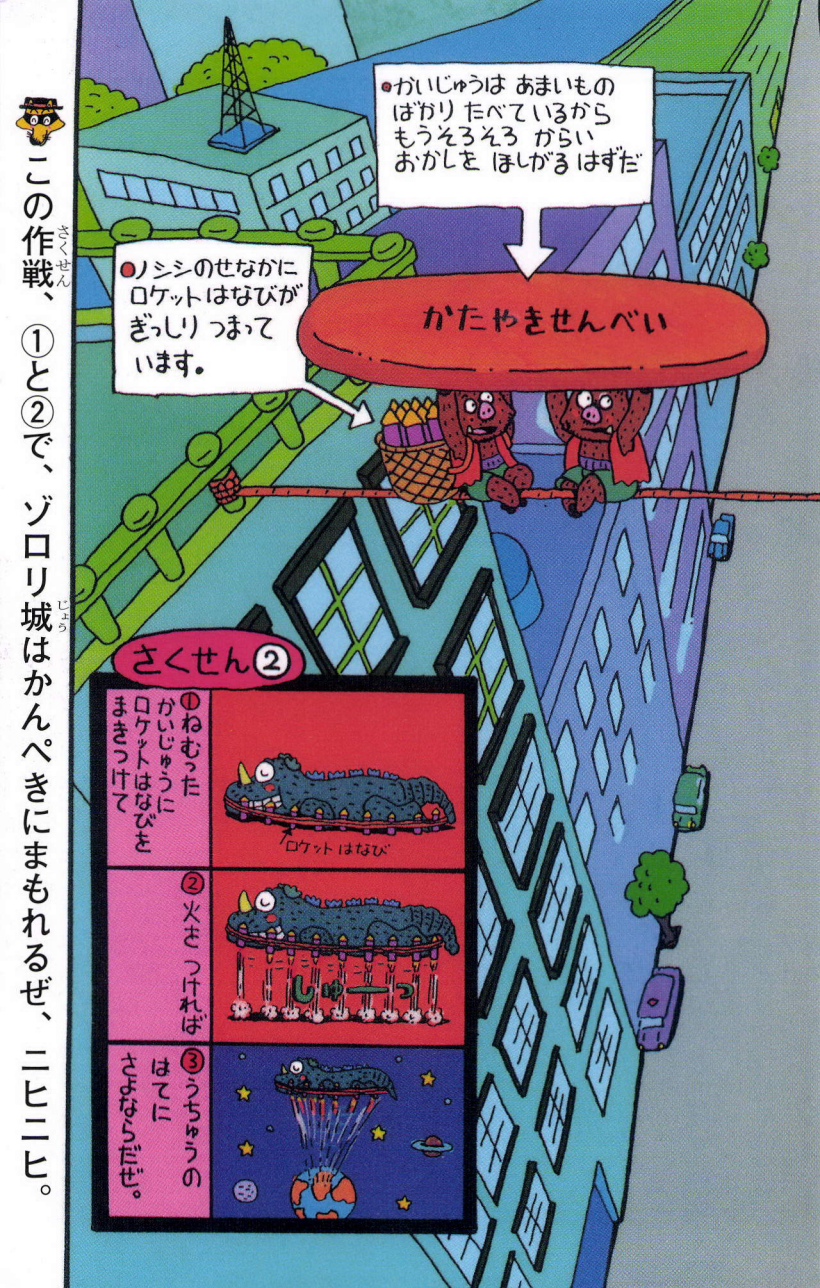
「かいじゅうが
ねむったら、すぐに
たすけてやるからな、
まってろよ。」
ゾロリの声が、ビルの
谷間にこだましました。



ただひとつ、計画が
くるったのは、イシシと
ノシシも、かいじゅうに
たべられてしまった
ことです。


大きな口をあけました。
そこへ、ゾロリはみごと、薬をなげいれました。
え～い


ハハハ
計画どおり、
かいじゅうは
おせんべいを
見つけると、




この作戦、①と②で、ゾロリ城はかんぺきにまもれるぜ、ニヒニヒ。

# ゾロリのねむり薬大作戦

二つのビルのあいだに、ロープをはって、かたやきせんべいをもたせたイシシとノシシを、すわらせます。この道をかいじゅうがとおってきたら、もうゾロリの思うつぼだ!!

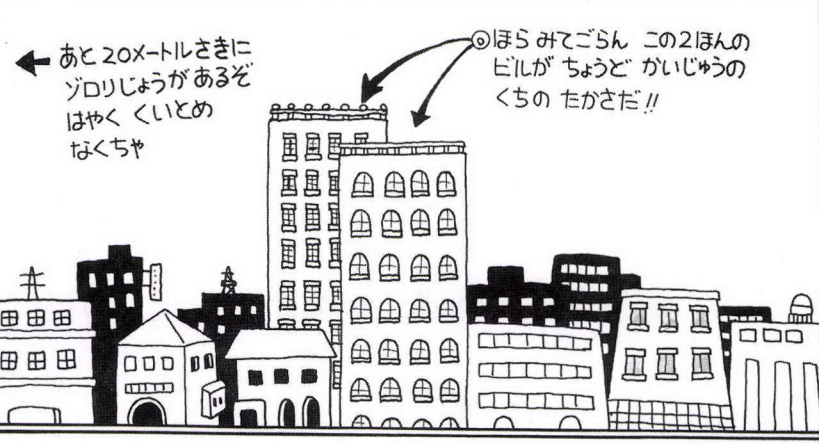
これがきょうりょくねむりぐすりだ!!

さくせん①

①おせんべいをたべようとくちをあける

②そのときおれさまがくすりをなげこむ

③かいじゅうはばったりたおれぐっすりおやすみさ。




「ウヒャッ。あれだ、
あのビルの屋上から、
口に薬をなげこむんだ!!」

さあ、ゾロリ城をまもる、
さいごのチャンス。
しっぱいはゆるされません。
そこでゾロリは、こんな
しかけをつくりました。

……かいじゅうの
ゆくてに、大きな
ビルが二つ、天に
むかってそびえて
いるのが見えます。
　その高さといえば、
おあつらえむきに
かいじゅうのせの
高さに、ピッタシです。

ゾロリは、また元気をなくし、ゾロリ城へ近づいていくかいじゅうを見つめました。すると……

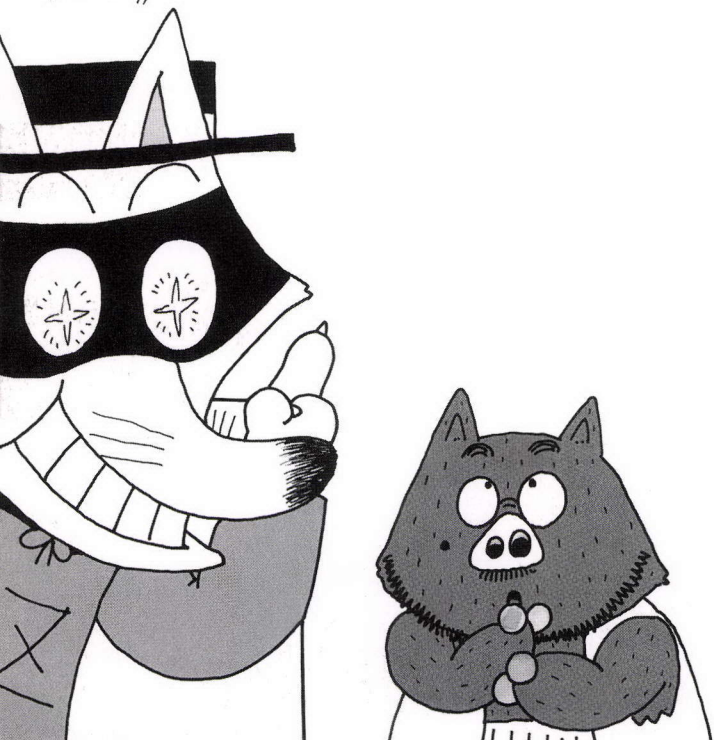
「そうさ!! ねむり薬をのませて、かいじゅうをねむらせちまえばいいんだ。ねむっているすきに、ロケット花火で、ぐるぐるまきにして、宇宙にぶっとばしちまうのさ。」

「かいじゅうがお昼ねでもしてくれたら、まだ、お城をまもる方法、考えられるのになあ。」

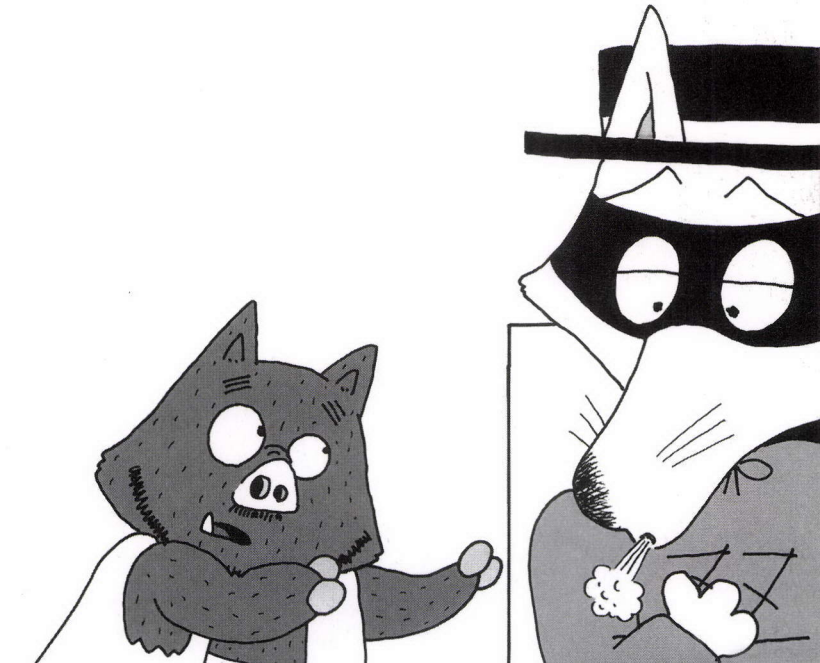
ノシシがつぶやくと、

**「それだ!!」**

とつぜん、ゾロリは目をかがやかせ、いったのです。



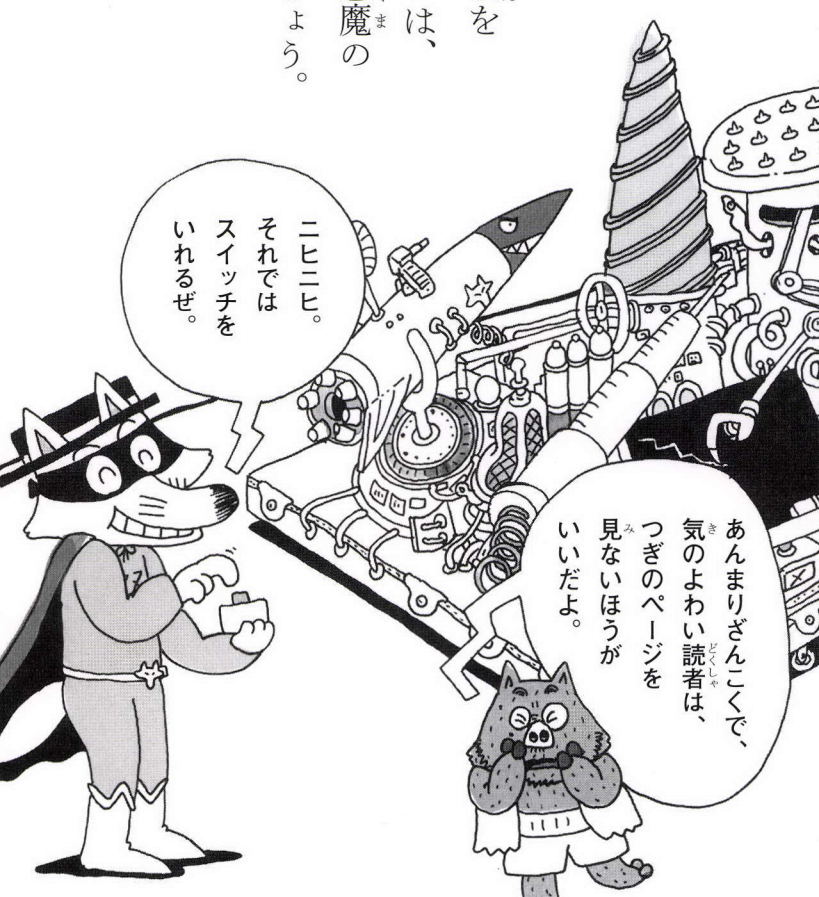
『大かいじゅういちころ
メカ』をいっしゅんの
うちにふみつぶされた
ゾロリは、大ショック。
「ハフー。」
大きくためいきをつき、
かたをがっくりおとしました。
「ゾロリせんせ。ゾロリ城は
こわされちまうだね。」



大かいじゅうは、
あまりにも大きすぎました。

ドスーン
あひゃー、ひどいー。

ゾロリ城を
まもるのに、手段を
えらばないゾロリは、
なんとつめたい悪魔の
ような男なのでしょう。

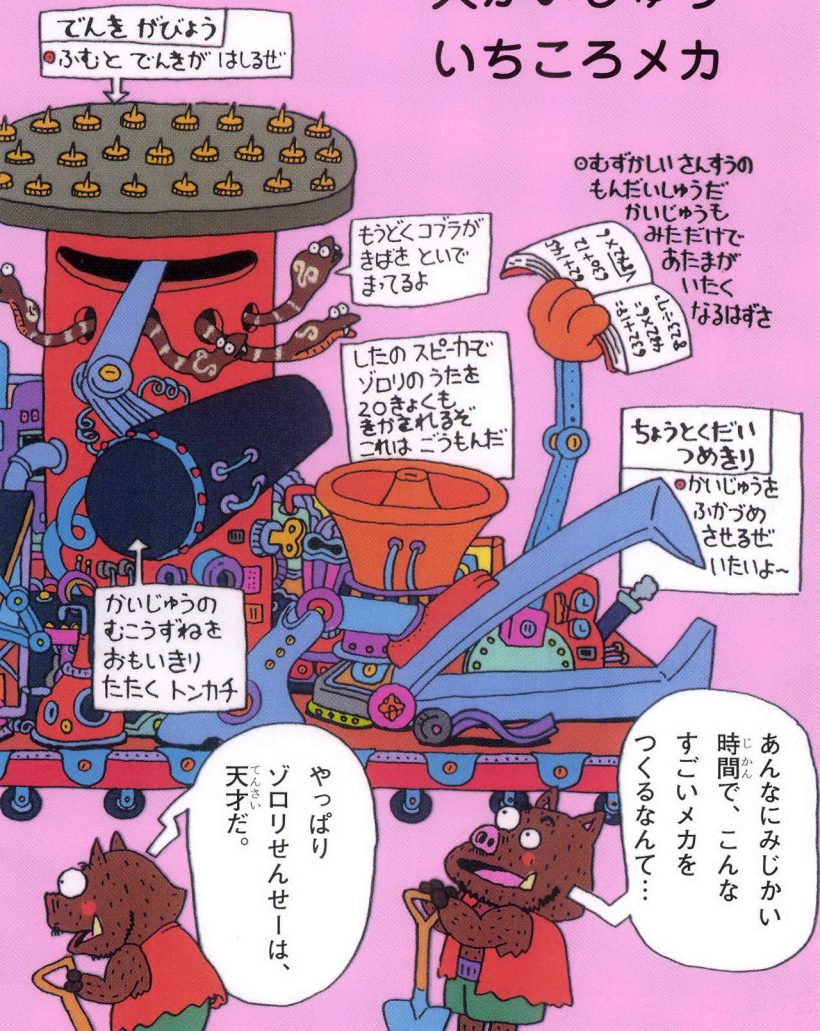


なにも知らない大かいじゅうは、
このおそろしいメカに
むかって、一歩一歩
近づいてくるのです。

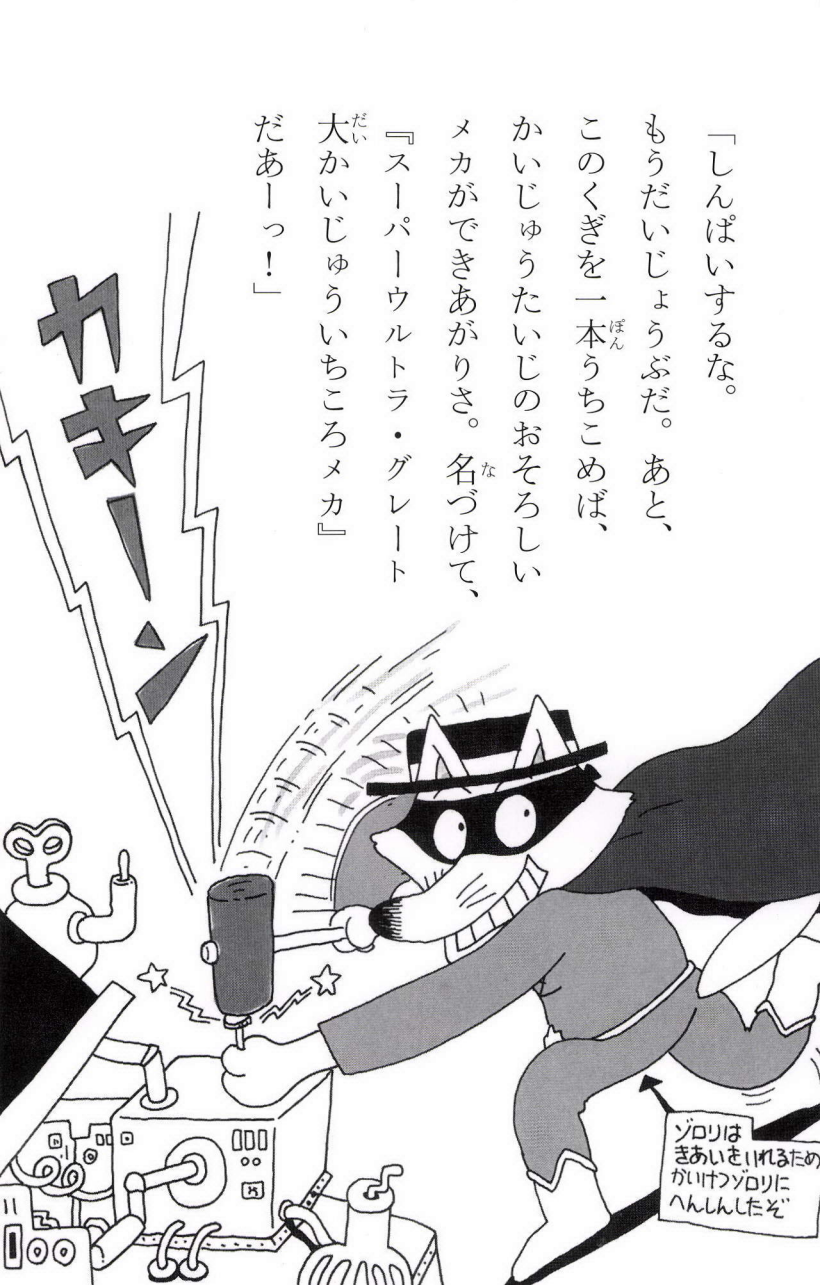
ゾロリはこのメカを、かいじゅうのとおり道にしかけたぞ。

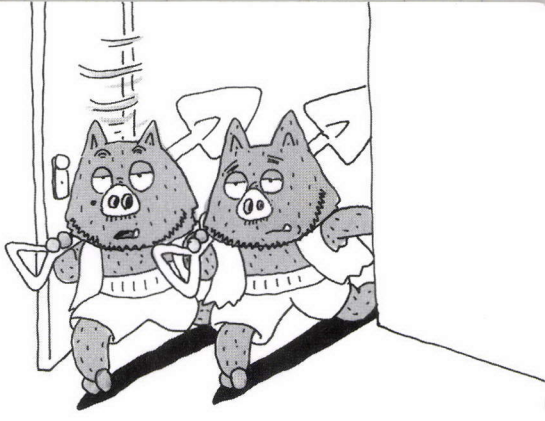
〈図解〉おそろしいきょうふ兵器

# スーパーウルトラ・グレート大かいじゅういちころメカ



「しんぱいするな。
もうだいじょうぶだ。あと、
このくぎを一本うちこめば、
かいじゅうたいじのおそろしい
メカができあがりさ。名づけて、
『スーパーウルトラ・グレート
大かいじゅういちころメカ』
だあーっ！」





作戦にしっぱいしたイシシとノシシが、
あわててゾロリ城へもどってきました。
「ゾロリせんせー。ごめんなさい、
おらたち、なんの役にもたてなかっただ。」
しかしゾロリは、おちついていいました。

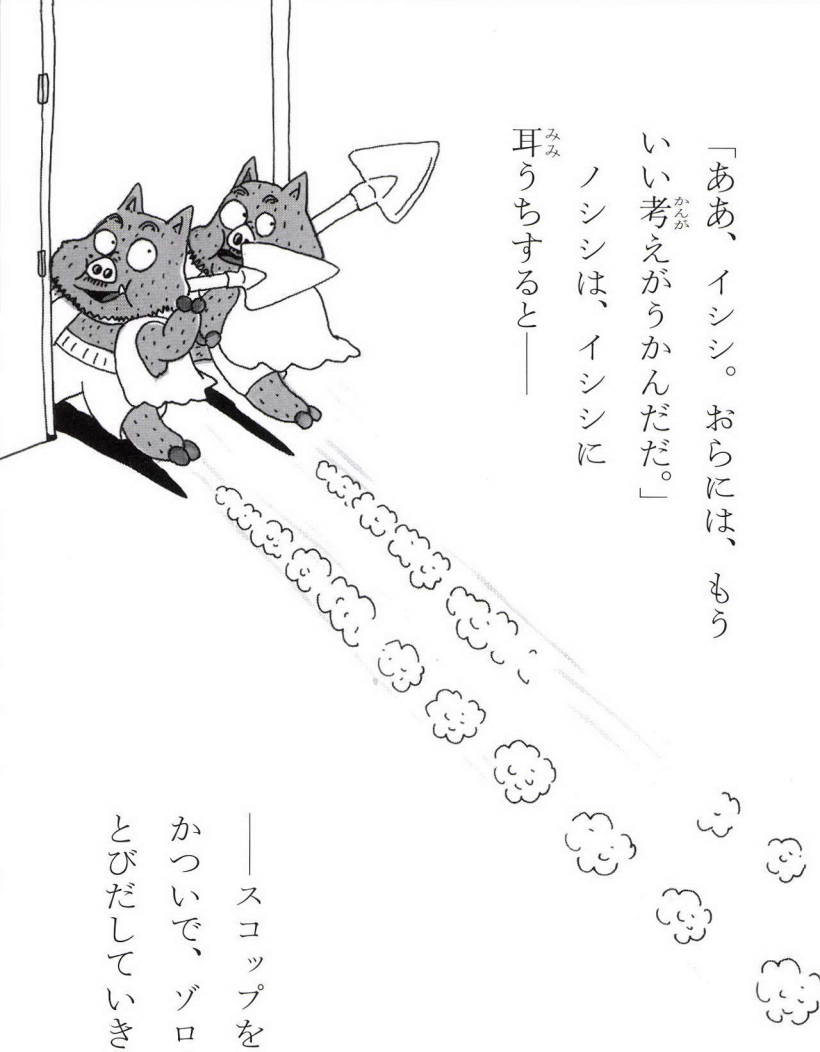
しかしかいじゅうは、
おとしあなを
かるがるとまたいで
いってしまいました。
あっ！
えっ！
ドスン

ズシン　ズシン！
かいじゅうが
地ひびきをたてて、
やってきました。
「いそげ、ノシシ。」
「わかった、イシシ。」
ふたりはひっしに
あなをほりつづけます。
がんばれ ノシシ
ほいきた イシシ

きゅうきゅうばこ

⊙すりむいた ひざに このなかの くすりを
ぬりはじめたら しめたもの
もっと じかん かせぎが できるだよ。

ゴーマー
このとおり道に、
おとしあなを
ほっておくんだ。
そうすっと……

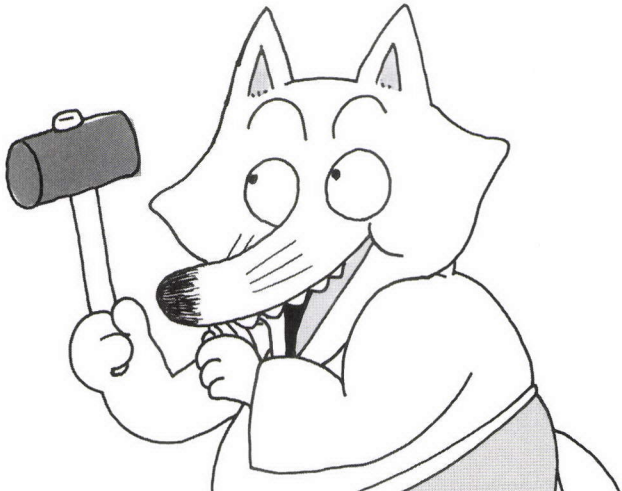


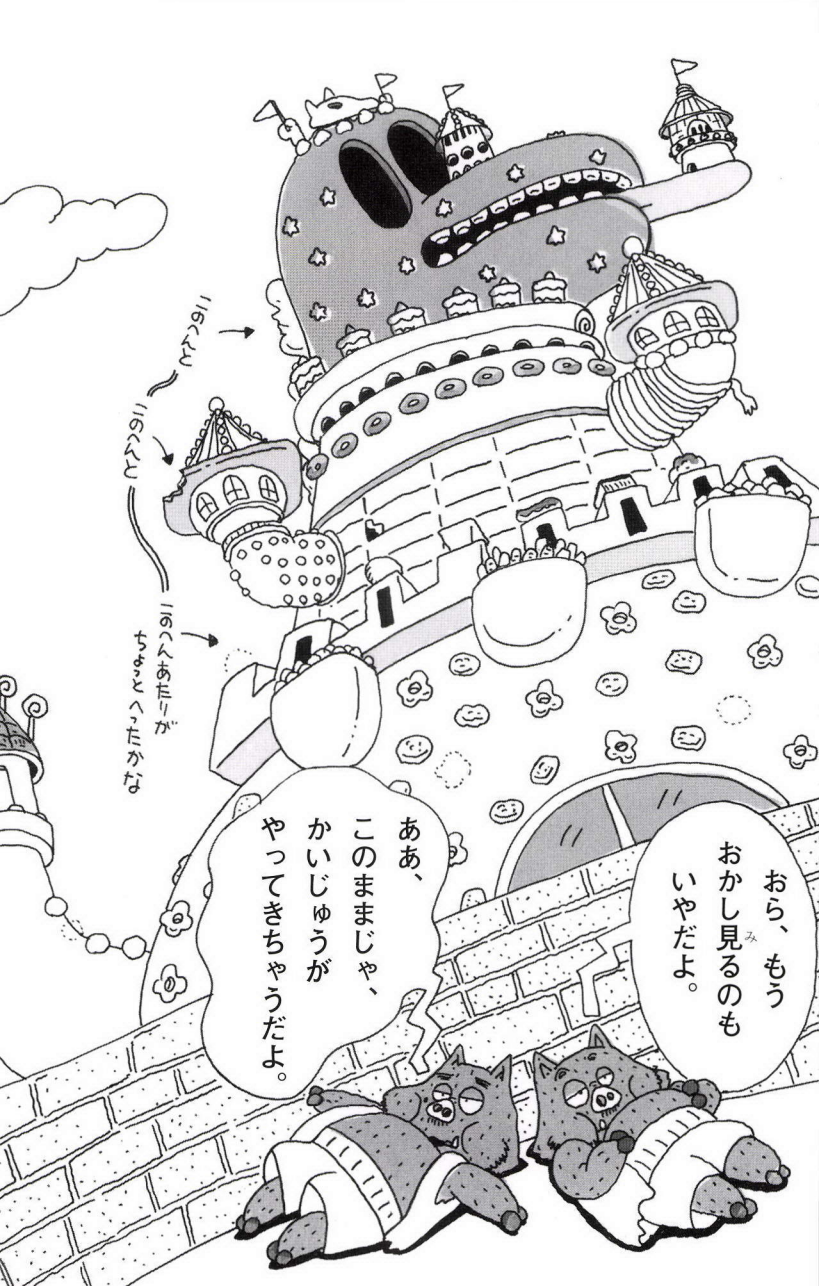
「ああ、イシシ。おらには、もういい考えがうかんだだ。」

ノシシは、イシシに耳うちすると――

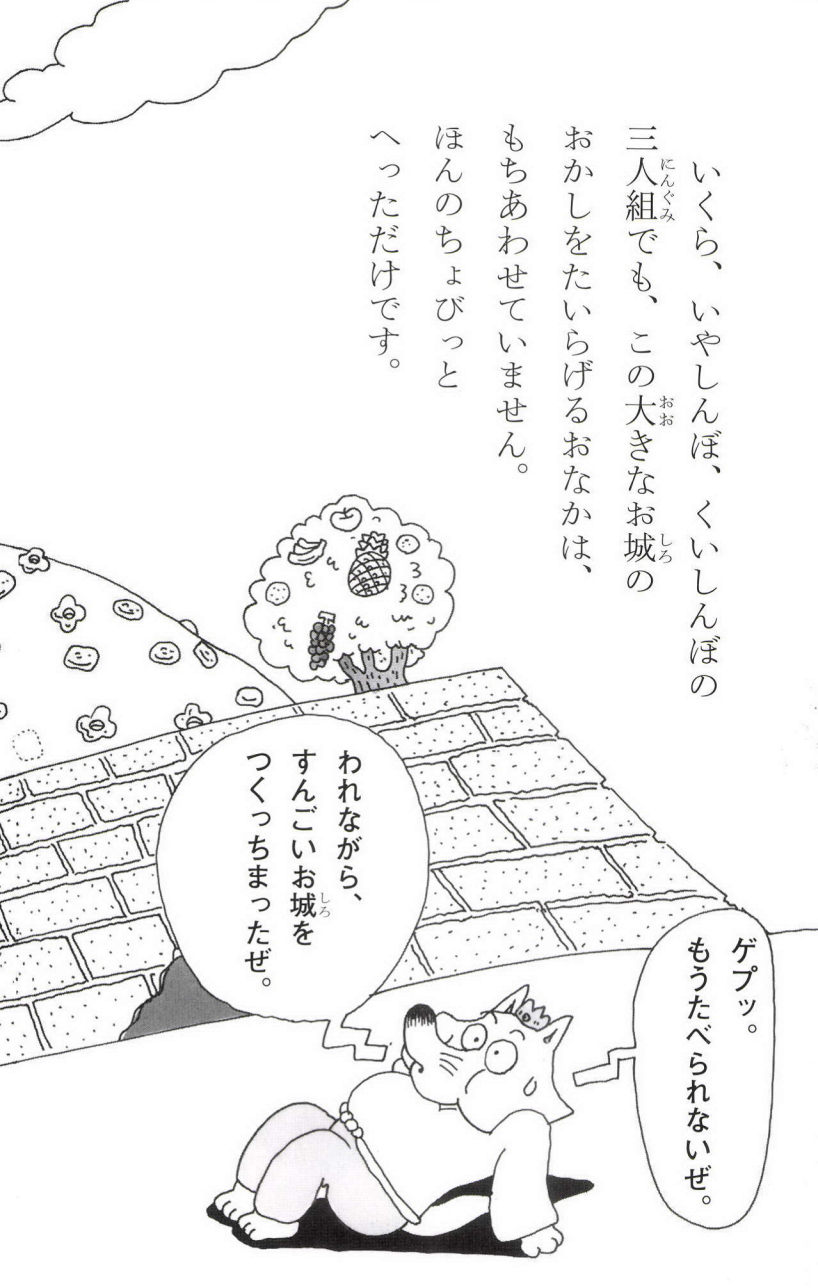
――スコップをかついで、ゾロリ城をとびだしていきました。

「おい、イシシ、ノシシ。
かいじゅうがここにくるのを、
ちょいとじゃましにいってくれ。
そのあいだに、かいじゅうを
やっつけるマシンを
つくりあげておくからな。」
「わかっただ。おらたちに
まかせておくれ。なあ、ノシシ。」




このへんと
このへんと
このへんあたりが
ちょっとへったかな
おら、もう
おかし見るのも
いやだよ。
ああ、
このままじゃ、
かいじゅうが
やってきちゃうだよ。

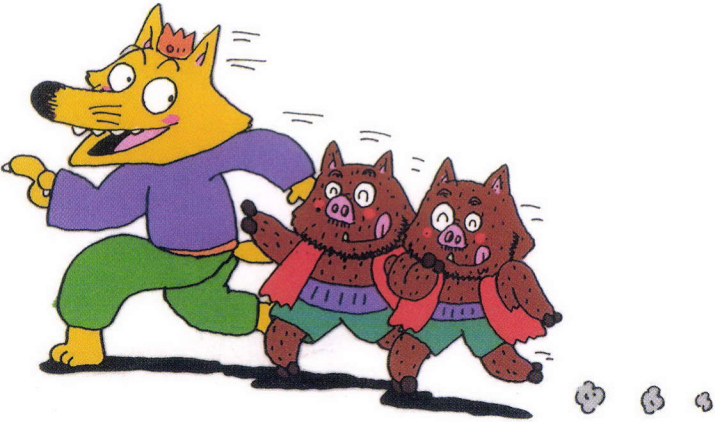
いくら、いやしんぼ、くいしんぼの
三人組でも、この大きなお城の
おかしをたいらげるおなかは、
もちあわせていません。
ほんのちょびっと
へっただけです。

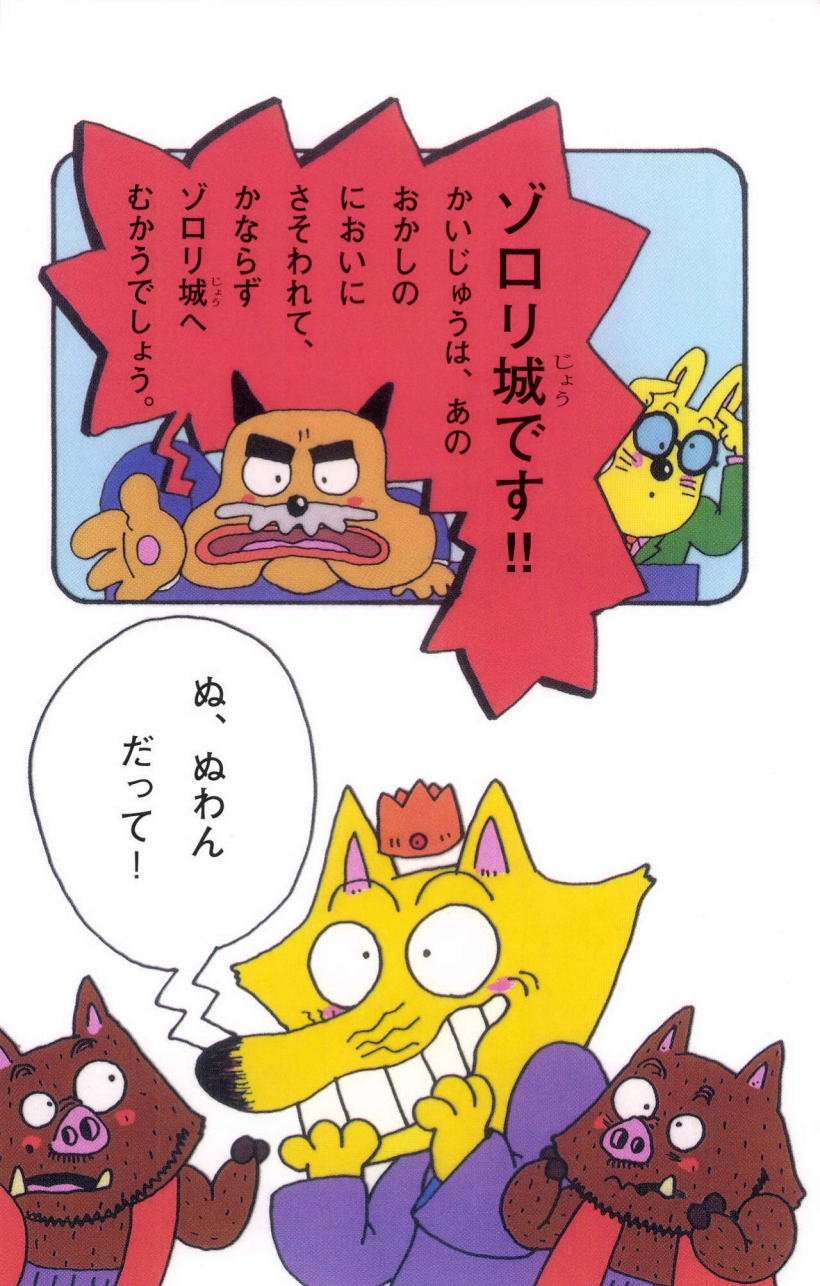


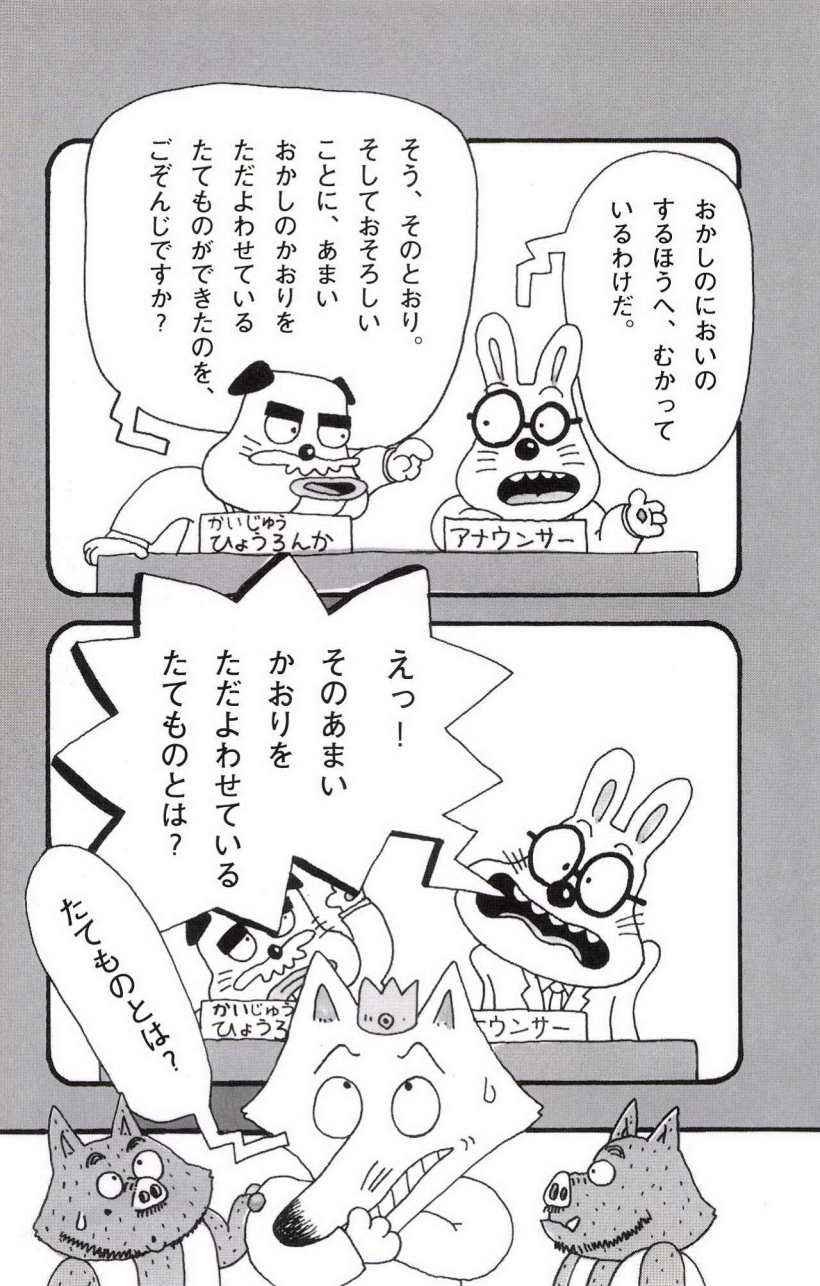
「こりゃ、たいへんだ。やっとのことで
手にいれたゾロリ城。たった一日で
こわされてたまるかい。さあ、イシシ、
ノシシ、ゾロリ城のおかしを、ぜーんぶ
たいらげて、あまいかおりをけすんだ!!」

「ひゃっほー！　みんな
たべちゃっていいだね！」

「やった!!　こんなしごとなら、
いつでも大かんげいだ。」




ゾロリ城です!!
かいじゅうは、あの
おかしの
においに
さそわれて、
かならず
ゾロリ城へ
むかうでしょう。
ぬ、ぬわん
だって!


おかしのにおいのするほうへ、むかっているわけだ。
そう、そのとおり。そしておそろしいことに、あまいおかしのかおりをただよわせているたてものができたのを、ごぞんじですか？
かいじゅうひょうろんか
アナウンサー
えっ！そのあまいかおりをただよわせているたてものとは？
たてものとは？

このかいじゅうは、なぜあばれているんでしょう？
アナウンサー
そうですね。「マンマー」とほえているところをみると、おなかがへっているようですよ。
かいじゅうひょうろんか
じゃあ、たべものをさがして、あばれているんですか？
アナウンサー
それもこどもらしく、おかしばかりをねらっていることがわかりました。
かいじゅうひょうろんか

はい、こちら現場です。
にげまどうひとびとで
このとおり、
パニックになって
おります。
町にはひなんめいれいが
でて、たいへんきけんに
なってきましたので、
わたしもにげだし
たいと思います。
それでは、みなさん
さようなら。

マンマ
これは かいじゅうの なきごえです
おかしや

じゃあ、まだこどもなんですね。

そうです。しかも公害によって、巨大化してしまったのです。

かいじゅうひょうろんか

アナウンサー

さあ、そのかいじゅうがどんなに大きいのか、みなさんにみていただくため、

現場からちゅうけいがはいっています。どうぞ、ごらんください。

かいじゅうひょうろんか

アナウンサー

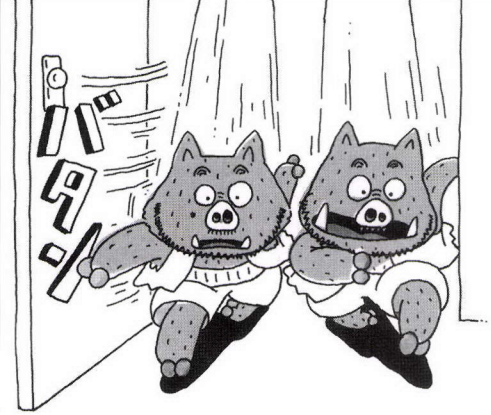
ふ〜ん

なるほどね

みたいみたい

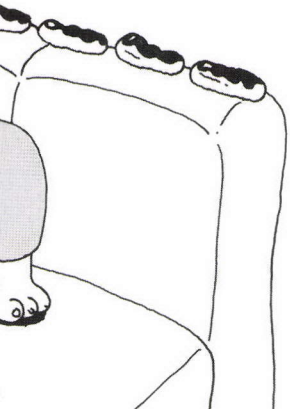
おわび　ゾロリの テレビは、ちょっと ちょうしが わるくて しろくろに なったり、カラーに なったりして おみぐるしいことが ありますが おゆるしください。

ゾロリはテレビのスイッチをいれました。




などと、お話がおわって
しまいそうになったときです。
イシシとノシシが、あわてて
とびこんできていいました。
「ゾロリせんせ、
テレビ、テレビを
つけるだ!!」

「読者のしょくん、おどろいたかね。
すっげえお城をつくっちまっただろ。
というわけで、今回はいたずらの旅もお休み。
わるいけど、のんびりさせてもらうぜ。」
ゾロリはふっかふかのソファによこになり、エクレアをたべながら、マンガを読んだり、テレビゲームをして、たのしくくらしましたとさ……。



まわりは おかし だらけだ。
くーっ、早くたべたい。
とくだいクリームパン
100パーセントフルーツ・グミ
かたやきせんべい
ペロペロキャンデー
キキラメル
マーブルチョコ
エクレア（チョコレート・クリームいりだ）
シュークリーム（なまクリームもカスタードクリームもはいっているぜ）
くさもち
あまなっとう
○このなかはれいぞうこになっていてシャーベットやアイスクリームがどっちりはいってるんよ
ショートケーキ
ロールケーキ
カステラ
ドーナッ
ティラミス
スイートポテト
チョコレートケーキ
ババロア
ポテトチップス
えびせん
ばかたれゾロリ
ゾロリさんがんばれ!!
きつねのあかちゃんのママより
「まほうがいのでし」のたぬき
ようかいがっこうこうてきょう
ゾロリさんがんばれ
ゾロリさんおめでと
ゾロリさんおしろがんせいおめでとう
くるまのみなさんさんぱい
ブルーコブルより
かれてるはな

# 見よ!! これがゆめにまでみた ゾロリ城 パート2だ!!

えっ、なんだって、とうとう
ゾロリはゾロリ城をつくってしまったらしいぞ……。

春の日ざしをあびて、天国のママへとどけとばかりに、
ゾロリのうなり声、いえ、歌声がきこえてきました。

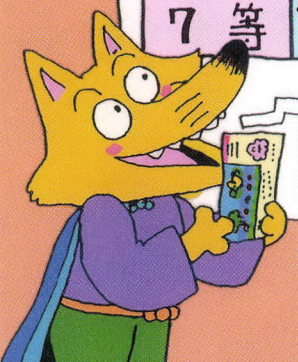
# かいけつゾロリの大かいじゅう

ちゅうい

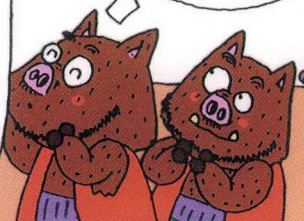
ゾロリのもっている宝くじは、この本の90ページにのっています。あたっているかどうかしらべたいひとは見てごらん。

## 第1953回全国自治宝くじ当せん発表

| 等級 | しょうひん | 当せん ばんごう |
|---|---|---|
| 1等 | ・あなたのおすきなおしろを 1つ | 18組 165333 |
| 2等 | ・あなたのおすきなくるまを 1だい | 08組 138339 |
| 3等 | ・あなたのおすきなじてんしゃ 1だい | 11組 162147 |
| 4等 | ・あなたのおすきなファミコンカセット4こ | 各組 113875 |
| 5等 | ・おいしいふりかけ1ねんぶん | 各組 188[illegible] |
| 6等 | ・のざわなひとふくろ | 各組 [illegible] |
| 7等 | ・ティッシュ2まい | 各組 [illegible] |

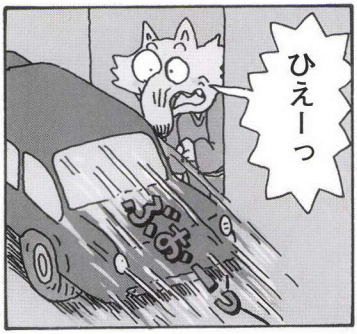


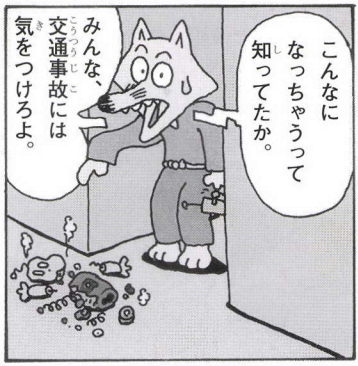
まあ、きたいしないで見るこったな。



ゾロリせんせ、宝くじあたってるといいだね。

ろじからきゅうに
大きな道へ
とびだすと……
リモコンロボット


ひえーっ
ぐぎゃーっ


こんなに
なっちゃうって
知ってたか。
みんな、
交通事故には
気をつけろよ。

# かいけつゾロリの大かいじゅう

⑦ かいけつゾロリの
大きょうりゅう

•おれさまが 大きょうりゅうを
つかまえて まちで
おおあばれ させたっけな。
この おはなしを よんで
ねむれなく なった
ファンも たくさん いたね。

⑧ かいけつゾロリの
きょうふの ゆうえんち

•おそろしい ゆうえんち、
「ゾロリーランド」を つくちまった
おれさまの あたまの よさに
みんな おどろいたよな。
この ほんを よんで
ゆうえんちに いくのが
こわくなった こどもが
ふえたという はなしだぜ。

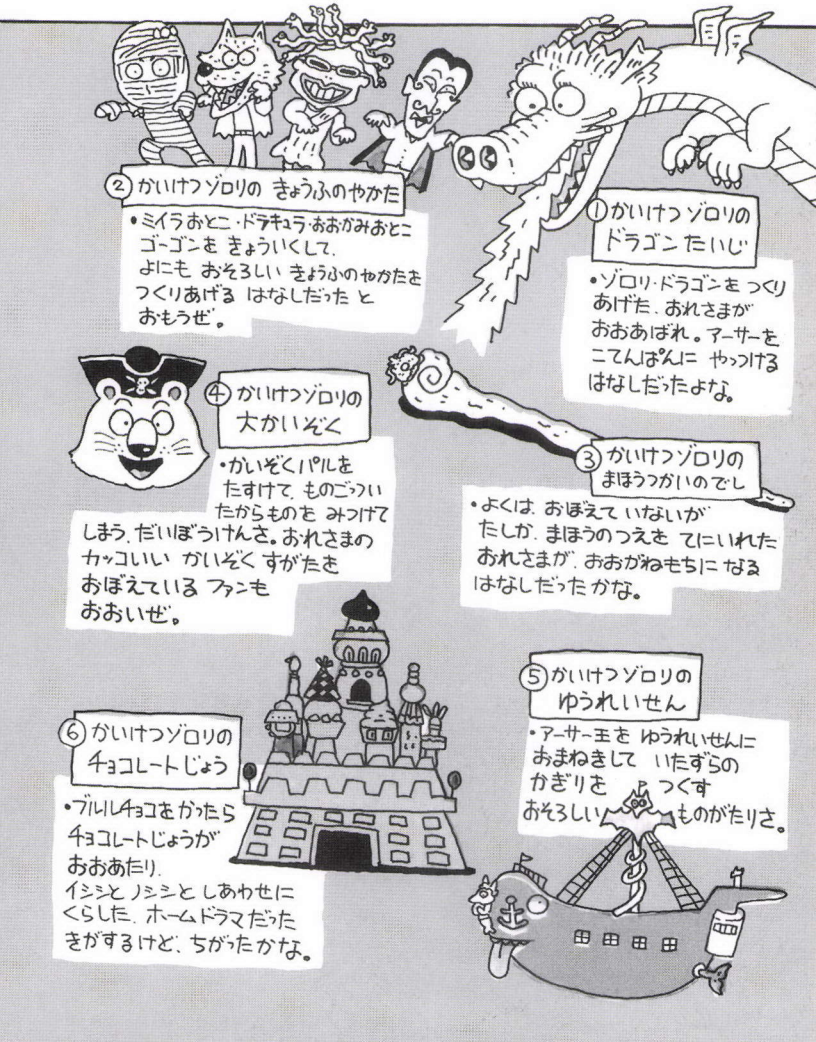
⑨ かいけつゾロリの
ママだーいすき

•つめたい おとこ ゾロリにも
ママの やさしさが ほしい
ときも あるのさ。
ほろっと なかせる
センチメンタルな
ぶんがく さくひん
だったな。

そして、いよいよ
きみたちは、記念すべき
第10話目のお話を、これから
読むことになるのだ。
さあ、ページを
めくりたまえ。

# ☆おまけページ・1

## かいけつゾロリがふりかえる
## 思い出のかずかず



# かいけつゾロリのママだーいすき

☆ここに レシートを
いれるだけで
ちゃんと コンピューターが
かけいぼを つけて
くれるぞ。

☆きょうの ばんごはんの
おこんだてを
かんがえて
ここに つくりかたを
だしてくれる。

☆すてきな
かみがたに
するパーマ

カーネーションばたけ
ははの日に たかい
カーネーションを
かわなくてすむぞ。

でんしレンジ

アイロン

アイロンだい

そうじき

◎おかいものに でかけるときは
したの 3だいの ロボットを
つれて いけば とても べんり

にもつもち
ロボット

ねぎり
ロボット

れいぞうこ
ロボット

☆そうじきで ごみを
すったあとに
この ベロで
ぞうきんがけだ!!

## とくべつ こうかい

☆これが ゾロリの ひろった たからくじだ!!

つぎの本で
とうせんは・ひみつ!!

ジャンボ・ドリームくじ

全国自治
宝くじ
第1953回
ユニット10

18組
165333

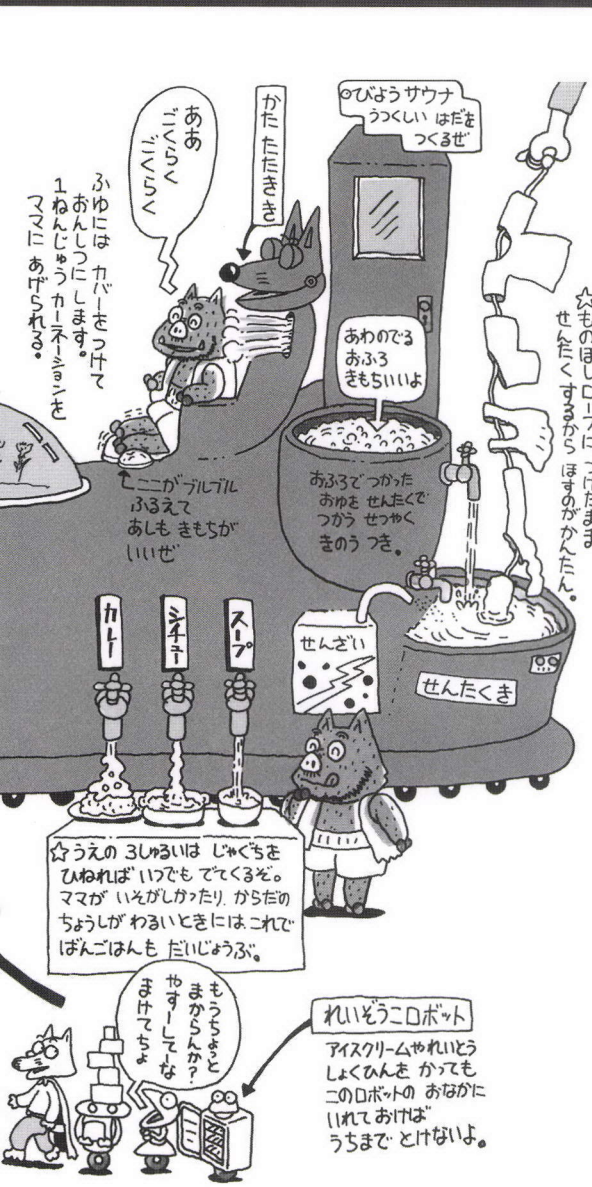
¥300

抽せん日 ゾロリ10さつめの本で発表
交付期間 抽せん日から1年間

発売・運営元が銀行

ちゅうい これは ゾロリのたからくじです。もし あたっても
きみは なにも もらえませんから ごちゅういください。

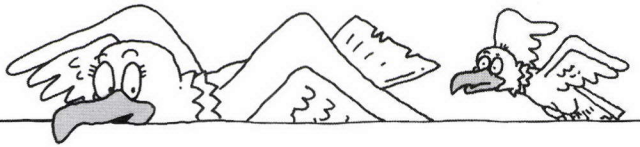
# ☆おまけページ・2




## ママがいたら、つくってあげたい おてつだいメカはこれだ!!

おっ！
いいことをしたら、
いいことがおこるもん
だぜ。ほら、そこに
宝くじが一まい
おちてるぜ。
ほんとだ。ゾロリせんせ、
これ大あたりだったら、
ゾロリ城が手にはいるだね。
宝くじの発表の日が
たのしみだなあ。

あっ
ゾロリさんだ
あのダイヤがあれば、
かつどんもハンバーグも
スパゲッティもたまごやきも、
死ぬほどたべられたかも
しれないだなあー。
おい、もういいかげんで
ダイヤのことはわすれるんだ。
イシシ、今度こそ、かならず、
ゾロリ城をたてて、おいしい
ものも、いやというほど、
たべさせてやるからな。

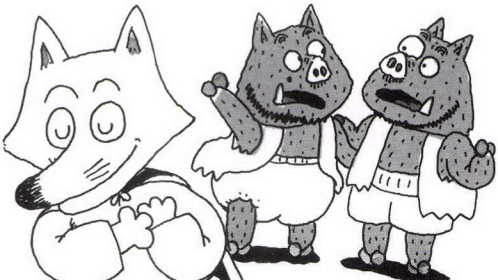


ゾロリさん　おげんきですか。じゅうしょを おきき
せずに おわかれしたので　ワシのおやこに ゾロリさんを
さがして　この てがみを　とどけて もらうことにしました。

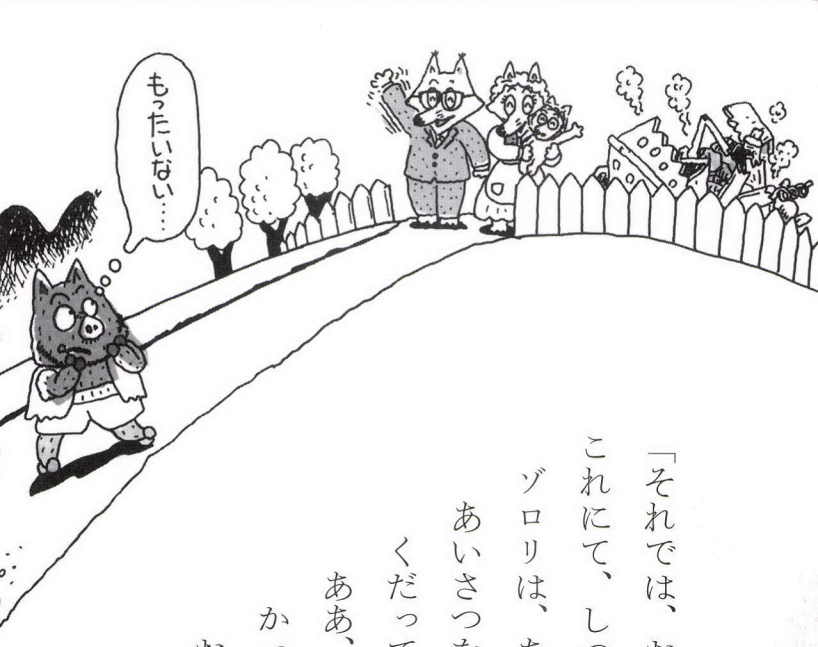
ゾロリさんと おわかれ したあと　きづいたのですが
わたしどもの　あかちゃんが　手に　大きな ダイヤを
にぎりしめて いたのです。おかげで　りっぱな
おうちも たち　おやこ 3にん とっても しあわせに
くらしています。うちの ぼうやも　ゾロリさんのような
りっぱな　キッネに なるよう　そだって ほしいと
おもっています。おからだに　きをつけてくださいね
イシシさん ノシシさんにも よろしく
それでは
　さようなら

あかちゃんの ママより

「あの、ダイヤ、400カラットは、あっただな。」
「ゾロリ城をつくったおつりで、たこやきもたべられたはずだよな。」
イシシとノシシは、まだぶつくさダイヤのことをくやんでいます。
しかし、ゾロリはだまって目をつぶり、ひとこともしゃべりませんでした。
天国のママに親孝行をしたような、あたたかな気もちになっていたのです。

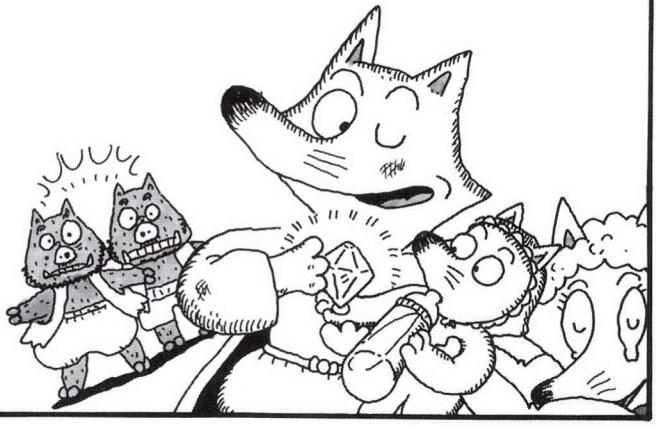


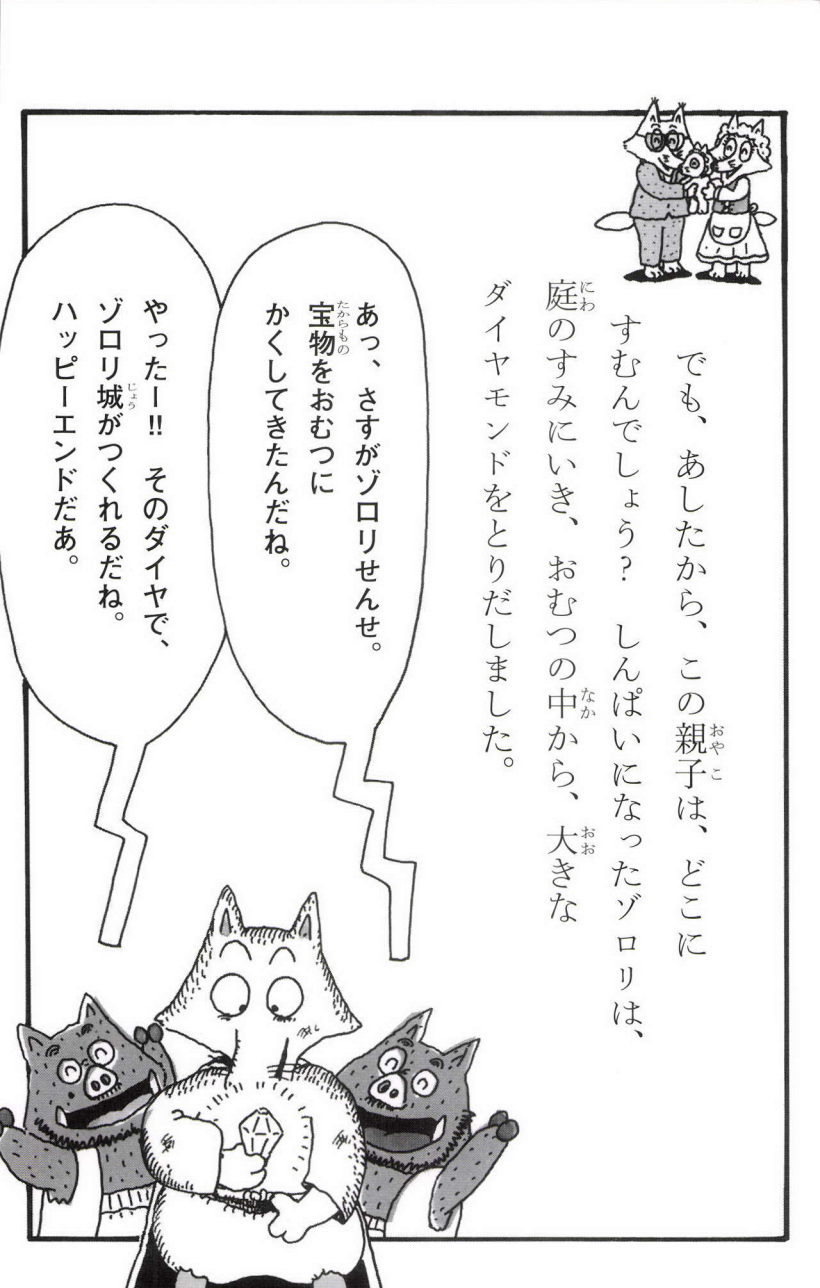
ゾロリせんせ、
まって
くださいよー。




「それでは、おれさま、旅のとちゅうなので、
これにて、しつれいします。」
ゾロリは、あかちゃんのパパとママに
あいさつをすると、さっそうと山を
くだっていったのです。
ああ、きょうのゾロリは、なんて
かっこいいんでしょう。
おむつさえしていなければ……。

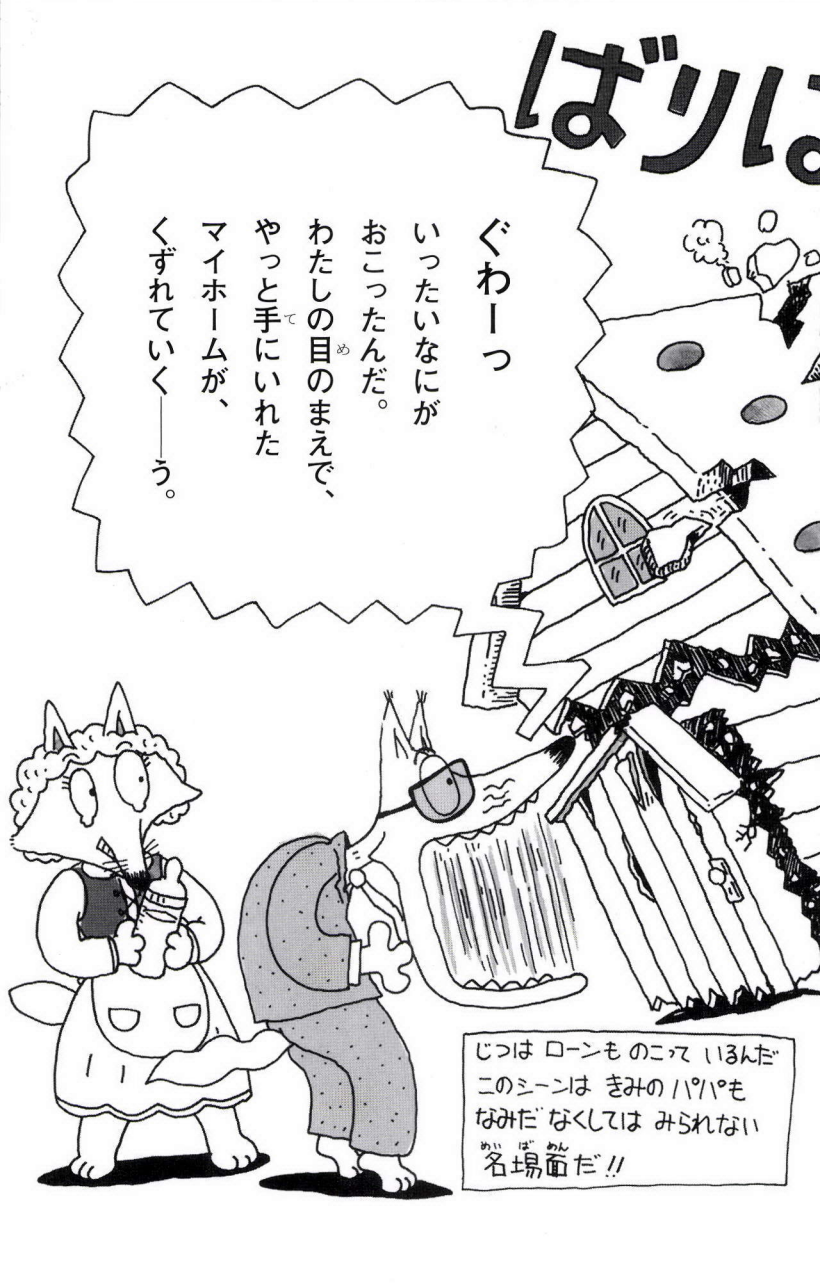
イシシとノシシは
大はしゃぎです。
しかし、ゾロリは、ママや
パパに気づかれないように、
あかちゃんのちっちゃな手に、
ダイヤモンドをそっと
にぎらせたのです。そして、
あかちゃんに、こうささやきました。
「ママとパパを、だいじにするんだぜ。」




でも、あしたから、この親子は、どこにすむんでしょう？　しんぱいになったゾロリは、庭のすみにいき、おむつの中から、大きなダイヤモンドをとりだしました。
あっ、さすがゾロリせんせ。宝物をおむつにかくしてきたんだね。
やったー!!　そのダイヤで、ゾロリ城がつくれるだね。ハッピーエンドだあ。

「そんなことは、いいの。
あかちゃんがかえって
きたんですもの。これ以上の
しあわせはないわ。ねえ、あなた。」
「そうですとも。家はまたはたらけば、
なんとかなります。ぼうやをたすけてくださって、
ほんとうにありがとうございました。」
こんなやさしいパパとママがいて、ぼうやは
しあわせものだと、ゾロリは、思いました。

ゾロリはこわれたうちからはいだして
きて、あかちゃんをさしだしました。
「さあ、やくそくどおり、
あかちゃんをとどけにきたぜ。」
「ああ、ゾロリさん。ありがとう。」
ママはあかちゃんをだきしめて、
ほおずりをしました。
「たいせつなあたらしいうち、
こわしちまったみたいだな。」


ばりば
ぐわーっ
いったいなにが
おこったんだ。
わたしの目のまえで、
やっと手にいれた
マイホームが、
くずれていく――う。
じつは ローンも のこって いるんだ
このシーンは きみの パパも
なみだ なくしては みられない
名場面だ!!

大(おお)ワシとゾロリ、イシシとノシシ、そして
あかちゃんがいっぺんにとびこんで
きたのです。あたらしいうちは、
ひとたまりもありません。

ヒューン！
ワシは、ゾロリたちを
のせたまま、かわいい
おうちにむかって
おちていきます。
「あぶなーい!!」
ゾロリは、あかちゃんが
けがをしないように、
しっかりとだきかかえました。

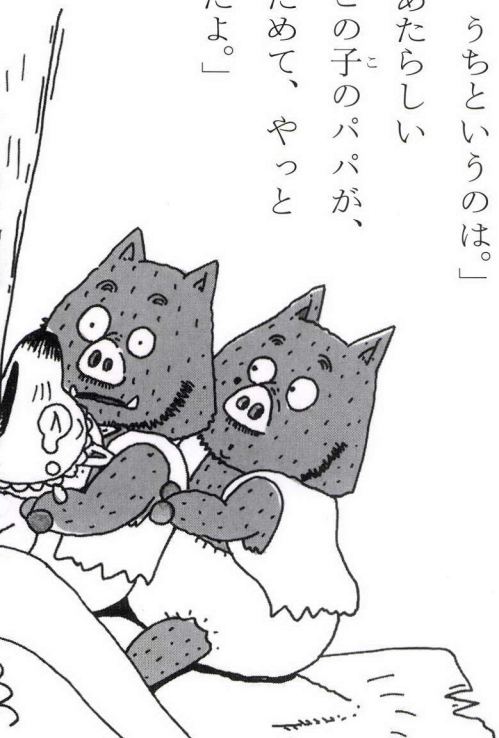
「あっ、きっとあの家だ。」
イシシが山の上のかわいいおうちを見つけました。
庭に、あのママが、しんぱいそうに立っています。まちがいありません。
「あの家ですね。わかりまし……。」
四人ものせて、とんでいたワシは、ずいぶんむりをしていたのでしょう。とうとう力つきて、気をうしなってしまったのです。

「そうそう、家は
男の城というしな。
家をたてるということは、
たいへんなことだぜ。
ゾロリ城をなかなかたてられない
おれさまには、パパの苦労が、
いたいほどよくわかるぜ。」

さあ、今度はあかちゃんを、ママのもとへ
とどけなくてはいけません。

「で、どこなんです。その、うちというのは。」

「たしか、山のてっぺんのあたらしい
うちだって、いってただ。この子のパパが、
いっしょうけんめいお金をためて、やっと
たてたマイホームらしいんだよ。」

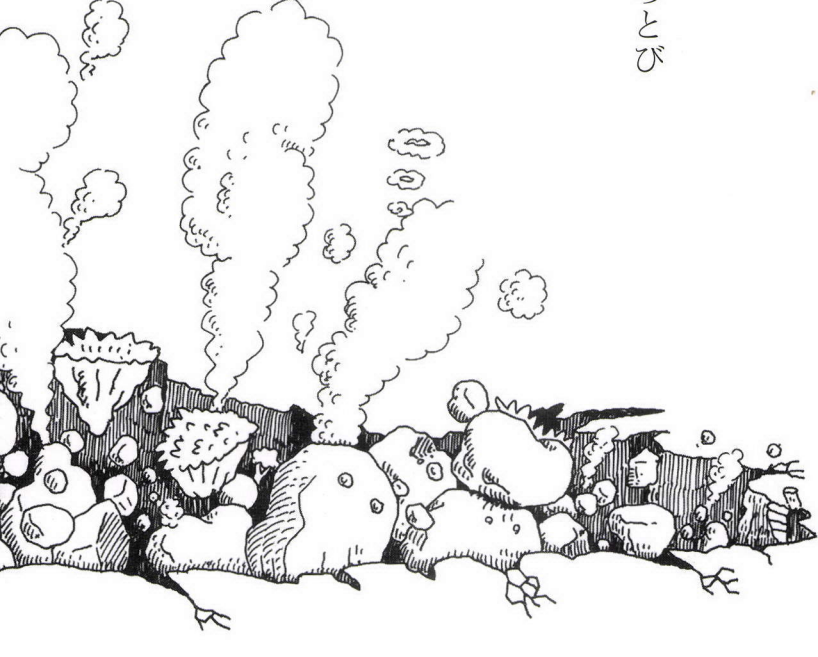


ギャアー
ハッハッハッ
ハッハッハッ
ハッハッハッ
ハッハッハッ
あ～あ
おれさまの
たからが
ゾロリじょうの
もとが
うもれていく～
グスグスン
おれさまも
なきたいよ～
ウマ～ン
ちょっと、
しずかにして
もらえませんかねえー。

ワシが四人をのせて、谷からとび
だした、そのしゅんかんです。

**ドドドドド**

宝とともに、谷は
あとかたもなく
うずもれて
しまいました。



わかったよー。いのちにはかえられないぜ。すぱっとぜんぶ、すてればいいんだろ。すてれば!!

ゾロリは、やけくそです。

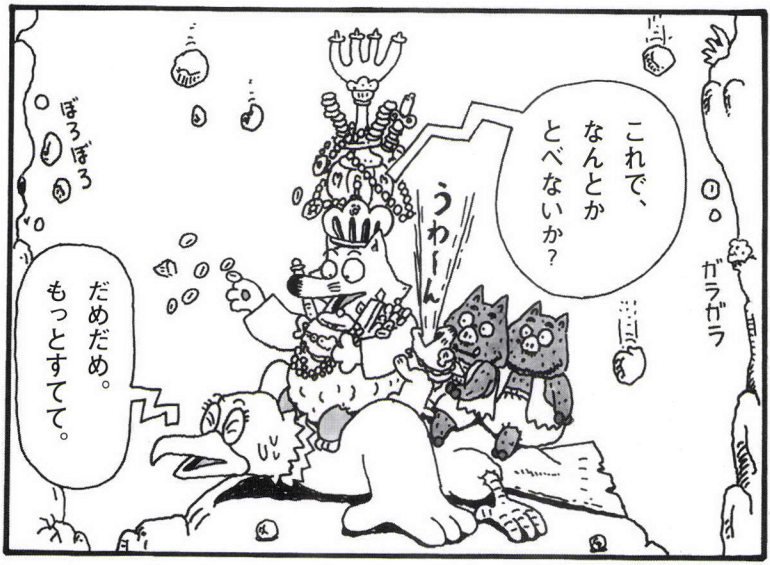
ワシは、やっとのことで、とびあがり——

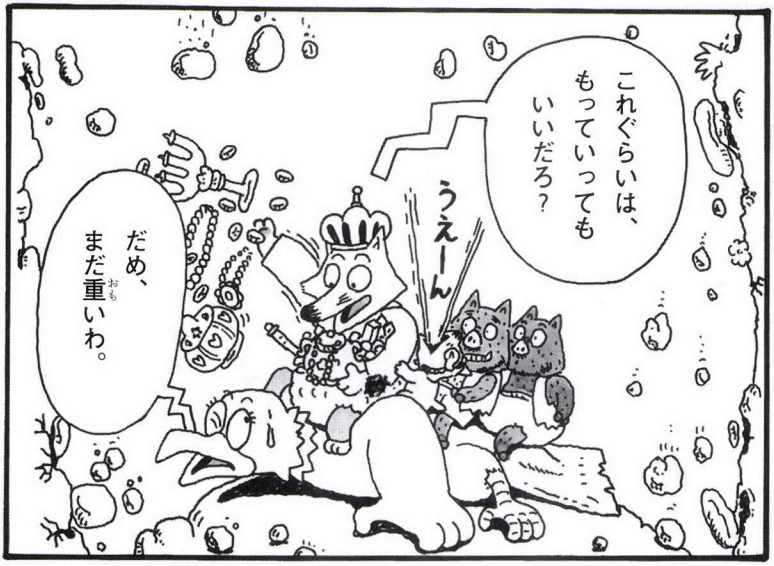
とんだ、とんだ。

うお

ばたばたばた

ふらふらと、谷の出口へいそぎました。


これで、なんとかとべないか？
うわーん
ぼろぼろ
ガラガラ
だめだめ。もっとすてて。


これぐらいは、もっていってもいいだろ？
うえーん
だめ、まだ重いわ。

「こんなに
重くちゃ、どんなに
がんばってもとびあがれませんわ。」
「わかった、わかった。宝をすてりゃ、
いいんだろ。」

よくばりゾロリは、たすかるとわかると、宝をもてるだけもって、ワシにまたがりました。ところが、ワシは、あまりの重さに、一センチだってとびあがることができません。

「おい、はやくとびたたなきゃ、みんな生きうめになっちまうぜ。」

そこでワシは毛布をぬすんで、あたためようとしたんだな。ところが、それよりも、かぜひいたおらの熱のおかげで——

イシシは、どうしてたすかったのか、物語(ものがたり)
おらは、ワシのすにつれていかれただ。そこには、たまごがひとつあっただ。
ことしの山(やま)は、さむくて、ワシがたまごをあたためても、なかなかかえらなかったらしいんだ。

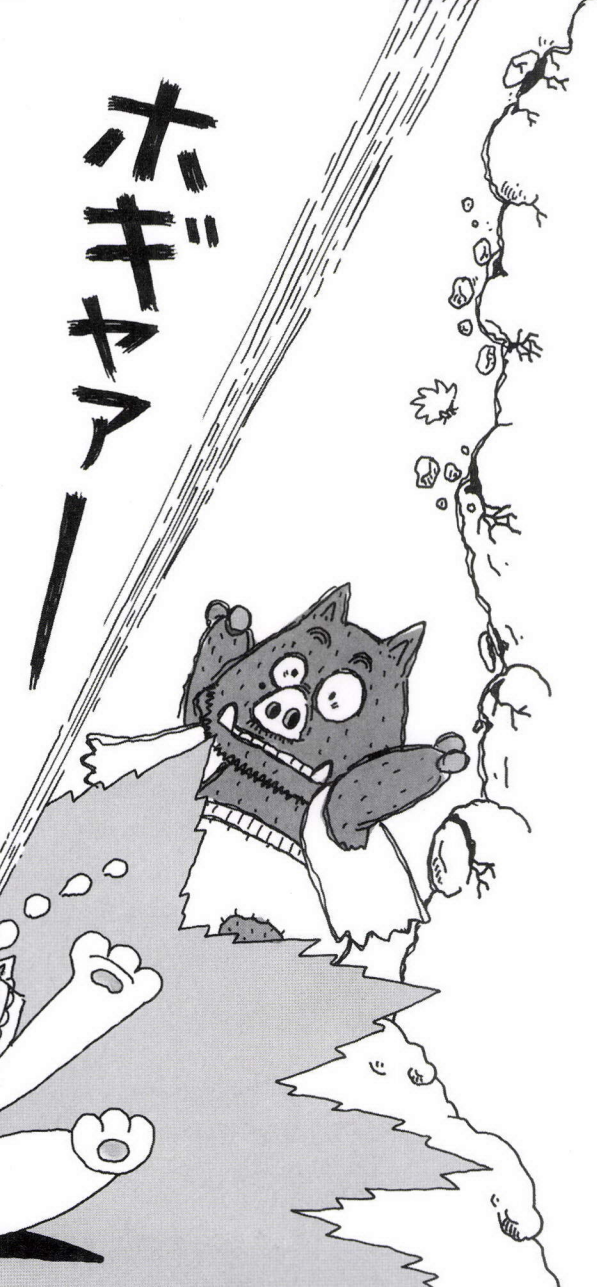
ゾロリせんせー、たすけにきただよー。この大ワシにのって、谷をだっしゅつするだー。
おーっ、イシシがぶじだったのか。いったいぜんたいどこへいっていたんだ。
ボギャギャー
ズギャギャー

大空からワシが、まいおりてきたのです。
そしてそのせなかにのっていたのは――
イシシだ。
イシシが
生きてただ!!

ゾロリ城の
ひとつもたてられずに
死んでゆく、なさけない
ぼくをゆるしてね。
ママー。」
ゾロリが、ママのいる天国を
見あげたときです。

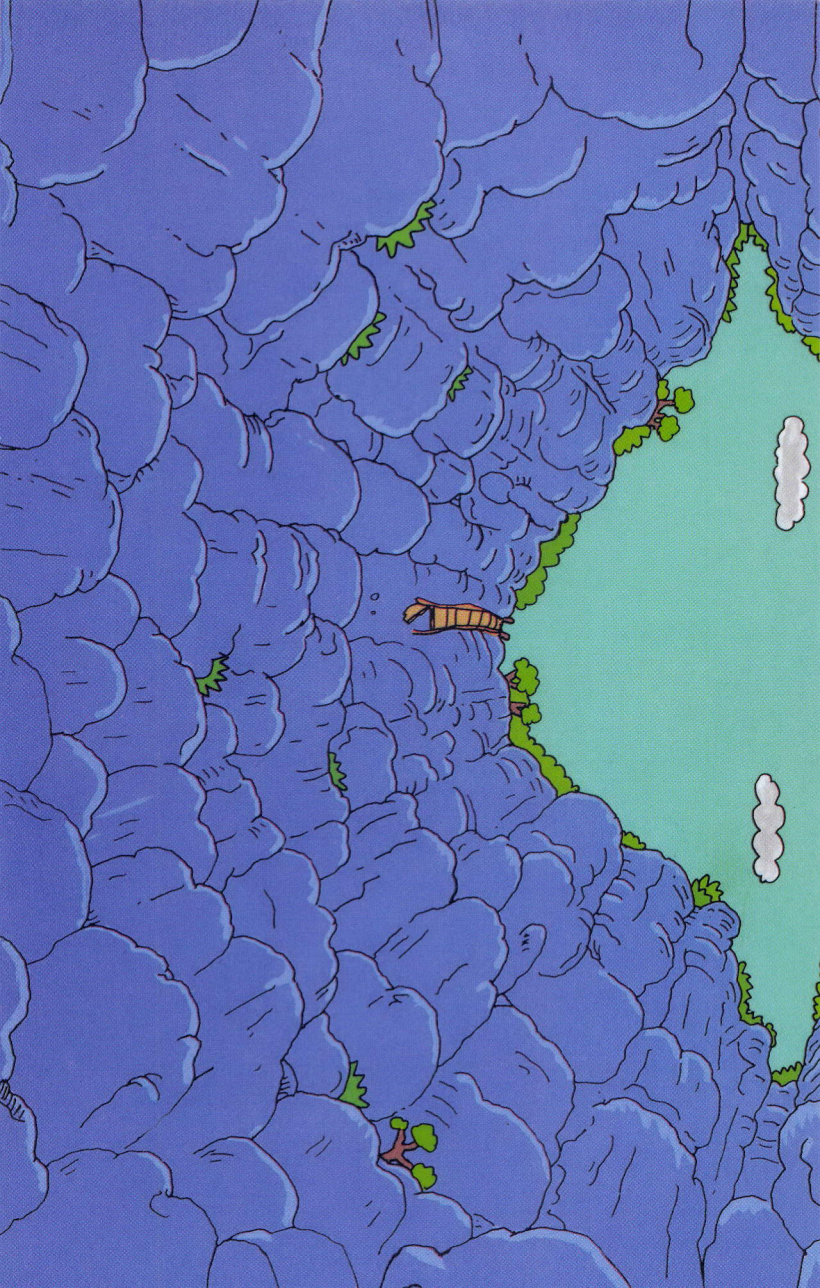
ゾロリは、あかちゃんをだきあげ、いっしょうけんめい
あやしましたが、そんなことで、おなかのへった
あかちゃんは泣きやみはしません。
とうとう、谷は地ひびきをたて、
くずれはじめました。
「ああ、なんということだ。
おれさまは、宝とともに、
この谷にうずもれて
しまうのか。

と、大声で泣きだしました。
そのすさまじい泣き声は、谷じゅうにこだまして、
まわりのかべにピキピキと、ひびをいれはじめた
ではありませんか。




おなかがすいたのは、ノシシだけではありません。
あかちゃんも、ミルクがほしくなったのでしょう。

ゾロリせんせ、こんなにふかい谷だよ。どうやって、あがるだあ。
なにをいってる。ゾロリ城のためだぜ。宝をもてるだけもって、何度も何度もこのがけをよじのぼるだけさ。
宝をぜんぶはこびあげるまで、あかちゃんはあとまわしだ。さあ、ノシシ、おまえにもてつだってもらうぜ。
でも、おら、おなかがへって、力がでないだよ。

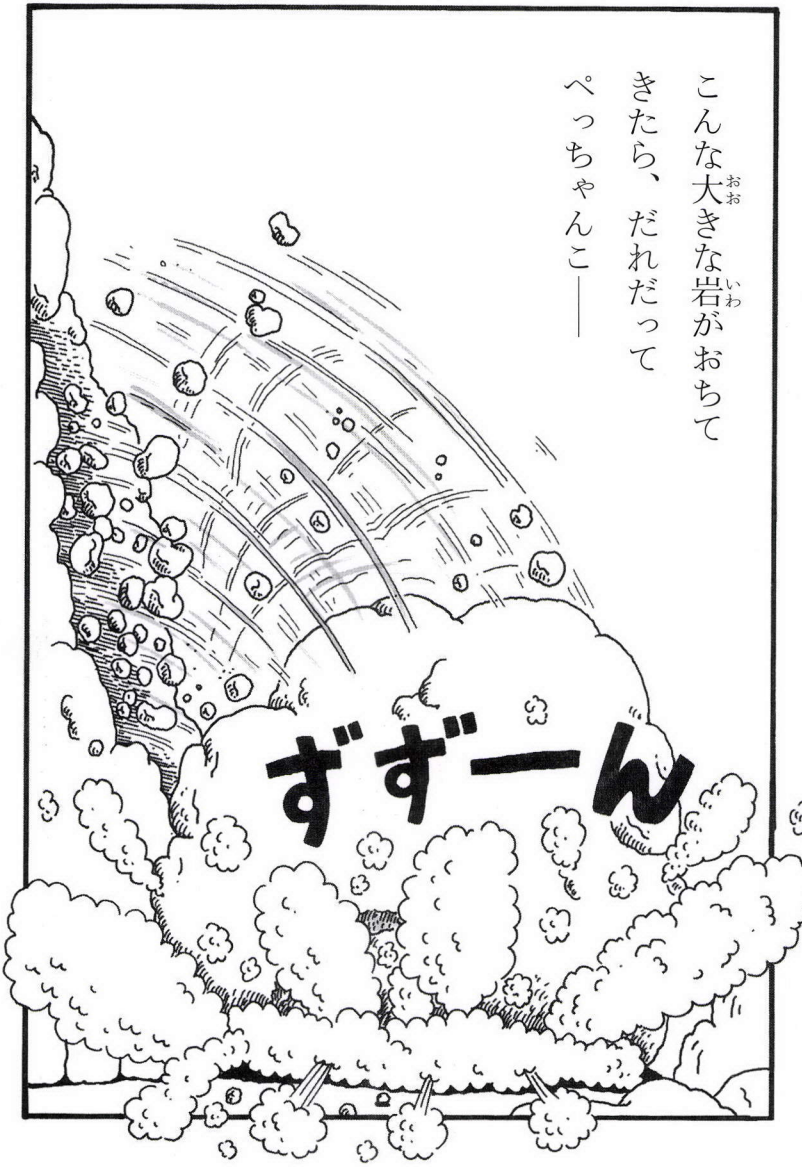


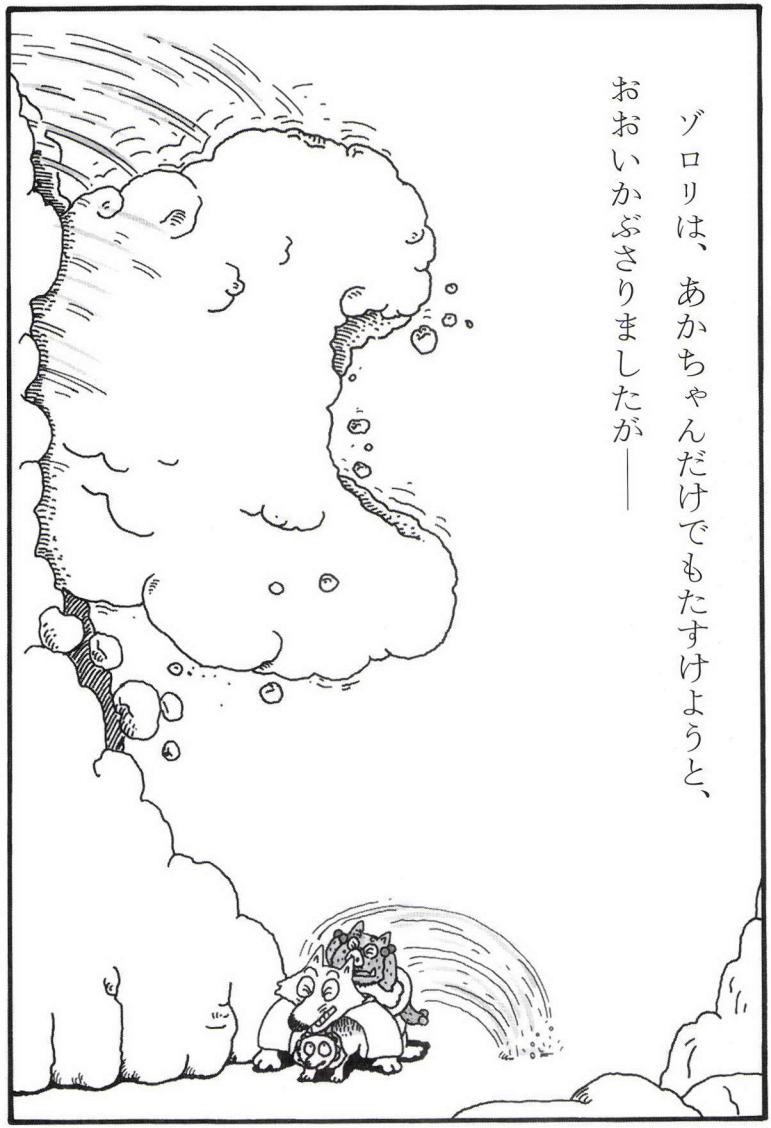
ママー、これだけあれば、
ゾロリ城も、パート100
いや、パート200までも、
つくれるかもしれないぜ。
こうなったら、全国に
ゾロリ城のチェーン店を
つくってやるぜ。
ニヒニヒニヒ。
18K
18K
18K

ゾロリは、ぴかぴかかがやく光を見ると、きゅうに元気になり、岩をかけあがりました。

ねえ、ゾロリせんせー。あのきらきら光ってるのはなんだろうね。
ピカピカピカピカ
どれどれ
なに？
えっ？
んっ

——ではなかったのです。ゾロリたちは岩のくぼみのおかげで、
ごらんのとおり、いのちびろいをしました。


こんな大きな岩がおちて
きたら、だれだって
ぺっちゃんこ――
ずずーん



ゾロリは、あかちゃんだけでもたすけようと、
おおいかぶさりましたが――

そうです。
そのために、
大岩が地ひびきを
たてて、あかちゃんの
ほうへ、ころがり
はじめたのです。もう
にげ道はありません。

ちょ、ちょっとまてよ。あの大きな岩のようすがへんだぜ。ノシシ、あの岩にぶつからなかっただろうな。
い、いや。ちょっとだけおしりが、ぼんよよよーんとあたったみたいだな。

ドロ
ぼんぼんぼんぼんぼーん
ママにやくそくしたんだもんね。ニヒニヒ。
ちゅうい
☆これはゾロリたちだからたすかったんだ。みんなはまねしちゃだめだぜ。

もちろんです。もこもこの紙おむつがクッションになって、ほら、このとおり。
おしり、いたくないだ。ゾロリせんせ、あったまいい――。
だろ、おれさまに、不可能はないのさ。あかちゃんは、かならずたすけるって、

だきかかえると――

そのまま谷(たに)そこへおちていったのです。

さて、ゾロリたちはたすかるのでしょうか？

ヒューン。　ゾロリたちは、

すぐにあかちゃんにおいつきました。

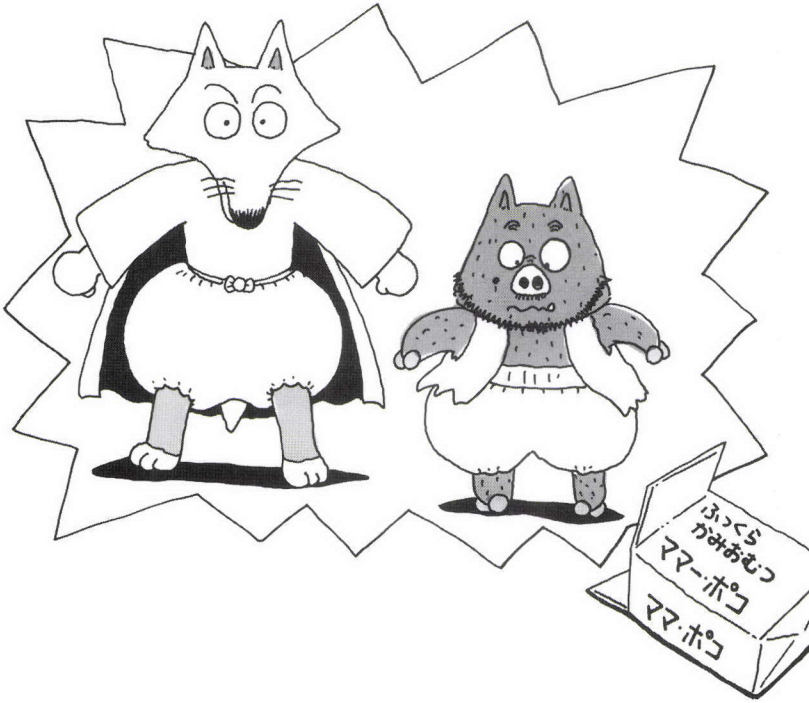
ゾロリはあかちゃんをしっかり

「これでよし。いまならまにあう。ノシシ、あかちゃんをたすけにいくぜ。それー。」

ゾロリは谷へとびおりていきました。

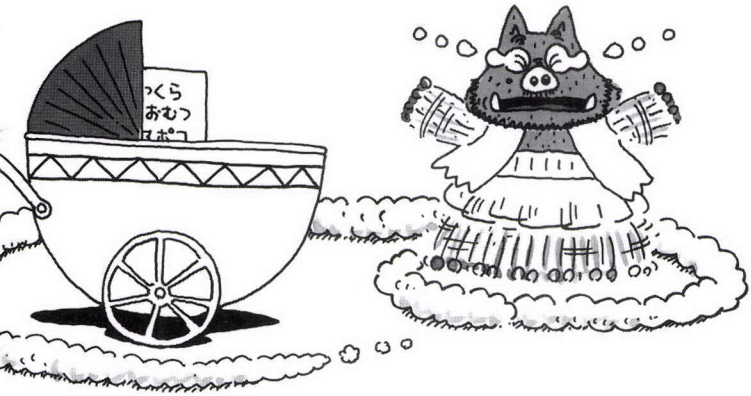
「うひゃ、ゾロリせんせが、なにを考えているのかわからないだが、おいらはどこまでもついていくだ。えーい。」

ノシシも、ゾロリのあとをおいかけます。




ノシシは、
わけもわからず、
紙おむつをゾロリと
はんぶんこにして、
はきました。
　おしりがもこもこに
なり、とても
かっこいいとは、
いえません。

ゾロリは、手に
のこったおむつを
見つめて、いいました。



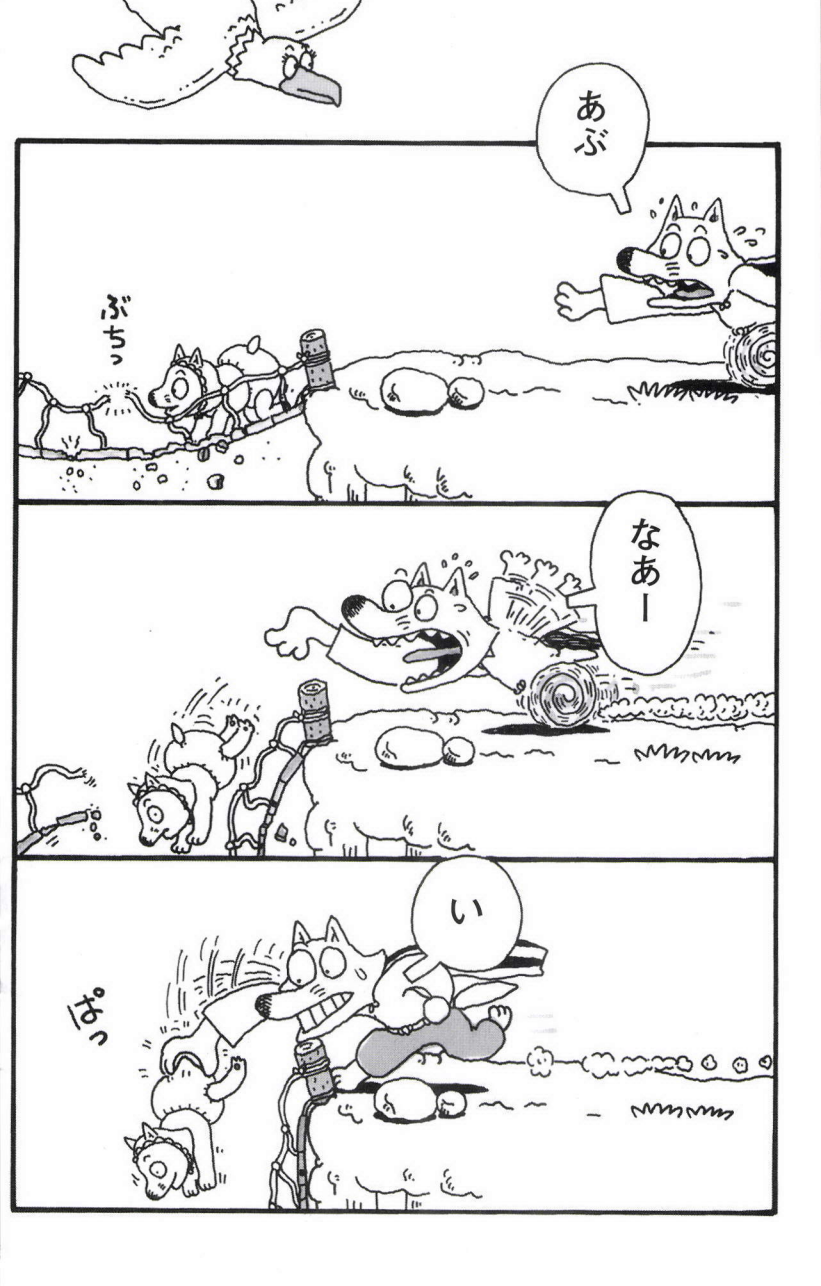

「うわーん、ゾロリせんせー、
どうしよう！」
ノシシは、ただ
そこらじゅうをかけまわって
泣きさけんでいるだけです。

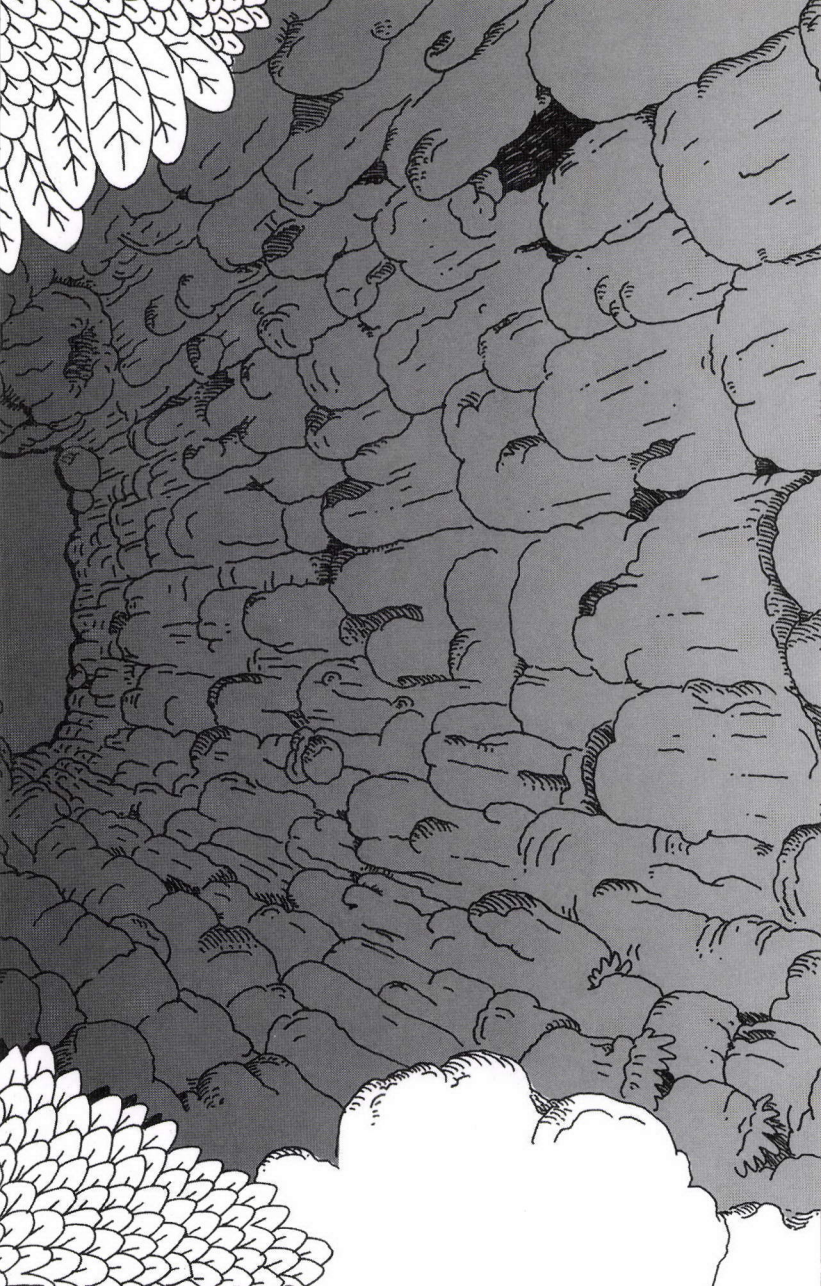
そして、さらに、
運のわるいことに、
ゾロリのつかんでいた
おむつから、
あかちゃんがすっぽり
すりぬけ、谷ぞこに
すいこまれていったのです。

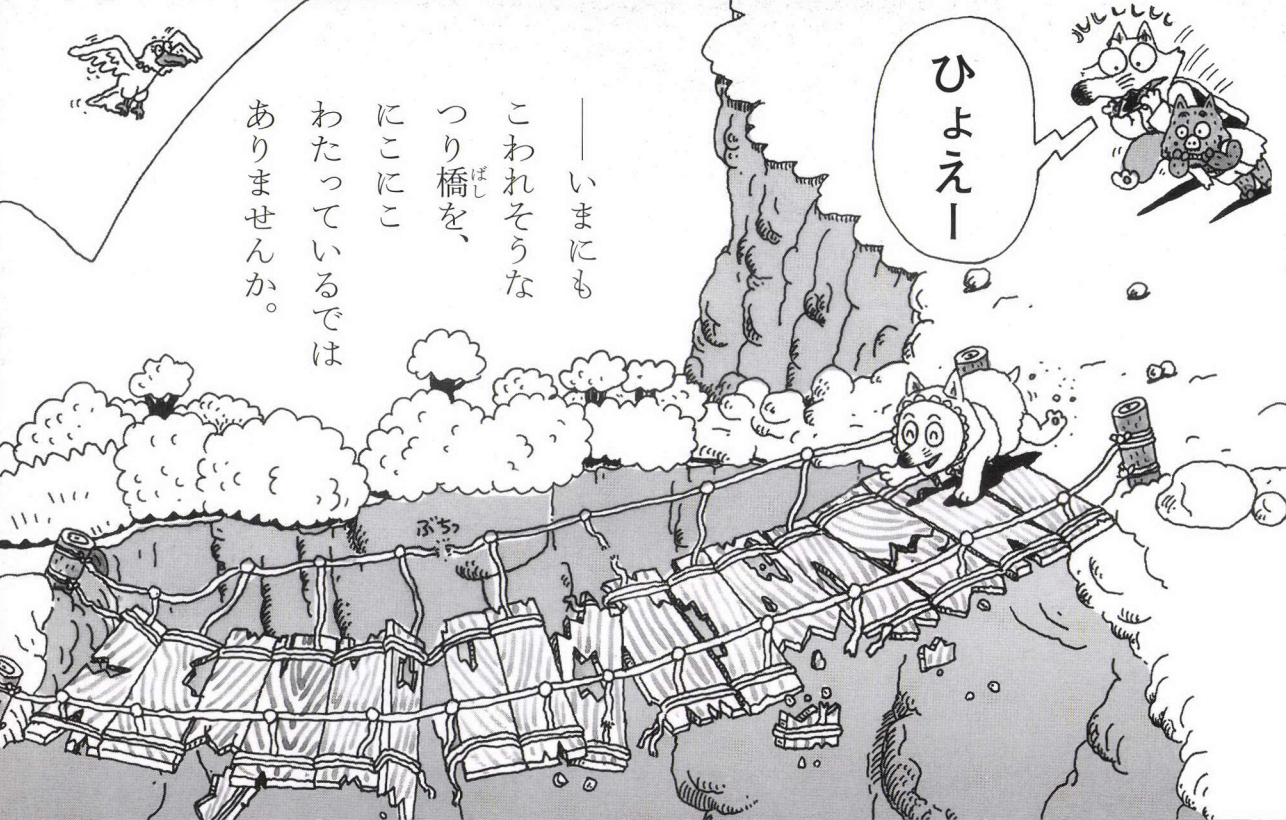
ゾロリがふりかえると、毛布にくるまれたまま、イシシがワシにさらわれているところでした。えさにしようと、空からねらっていたのでしょう。

「イシシー。」
ノシシが空をみあげて
手をふりあげたり、石を
なげたりしていますが、
もうなにをしても
とどきません。

おみごと！
ゾロリはおむつを
つかんで、あかちゃんを
たすけたのです。
そのとき、うしろで
ノシシのさけび声が
きこえてきました。
「こらあー、イシシをかえせー。」


あぶ
ぶちっ
なあー
い
ぱっ



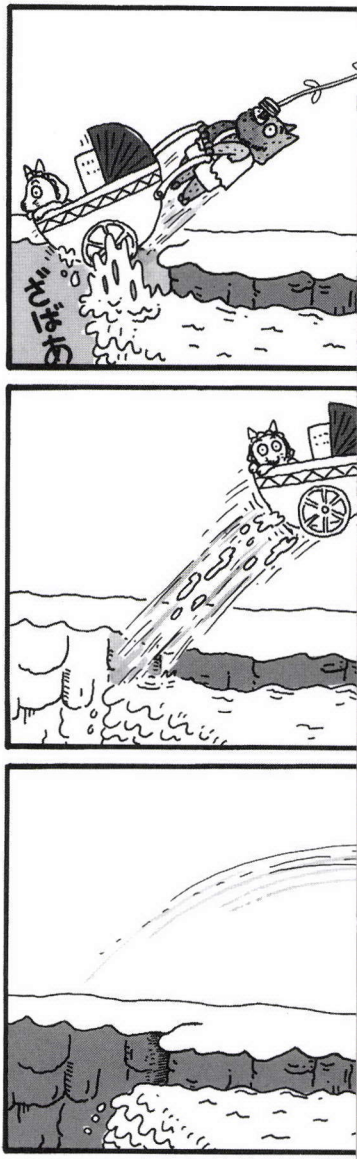



——いまにもこわれそうなつり橋を、にこにこわたっているではありませんか。

ゾロリたちがイシシのかんびょうをしているあいだに、あかちゃんは、はいはいして……

つめたい川に、長いあいだ、つかっていたせいでしょう。イシシはひどいかぜをひいてしまったようです。

「ああ、ふたりともぶじで、よかったぜ。」
ゾロリはうば車からあかちゃんをだきかかえて、いいました。
するとノシシが、
「ゾロリせんせ、イシシのようすがおかしいだよ。」



滝つぼにのみこまれるすんぜん

ぐぐぐぐぐぐ

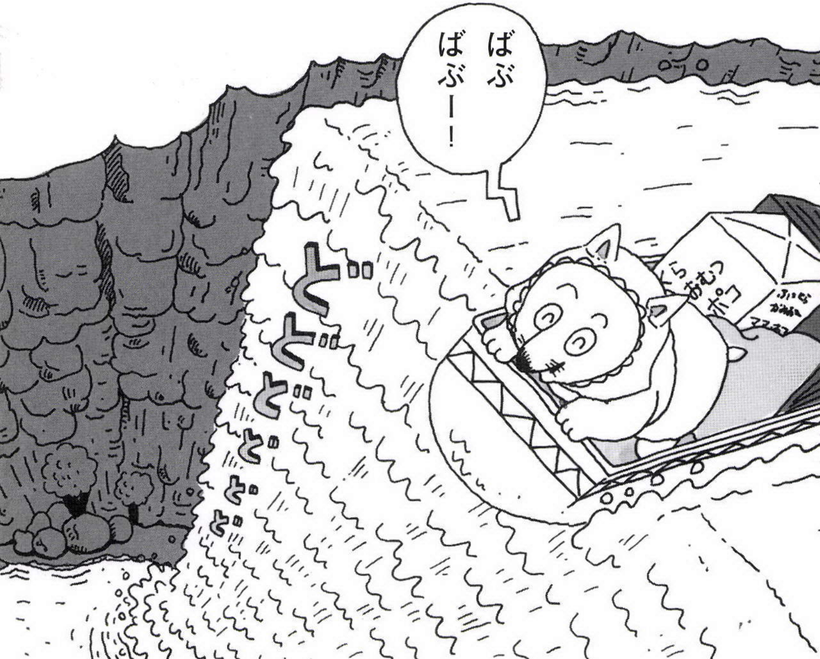
イシシはうば車とともに、宙をとび

ひゅ〜ん

川岸にひっぱりあげられていたのです。

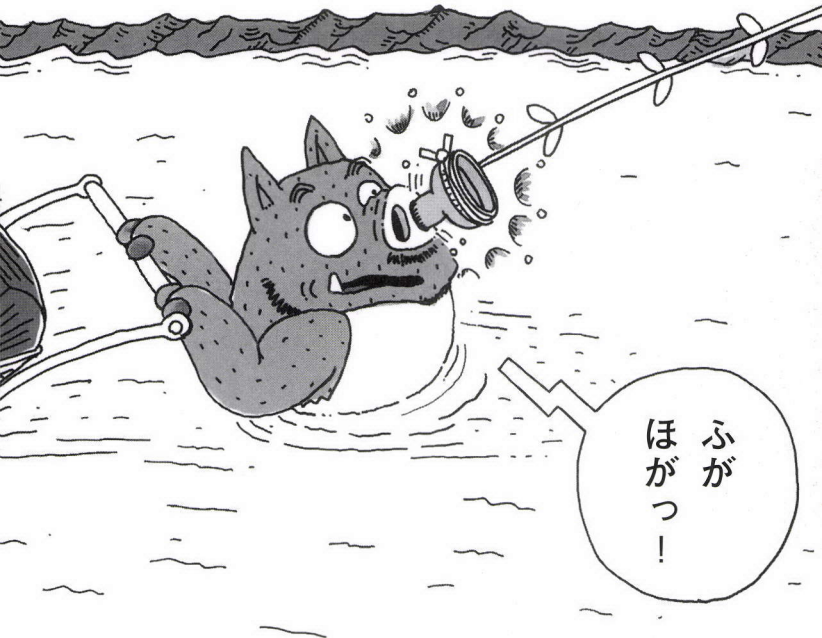
すとん

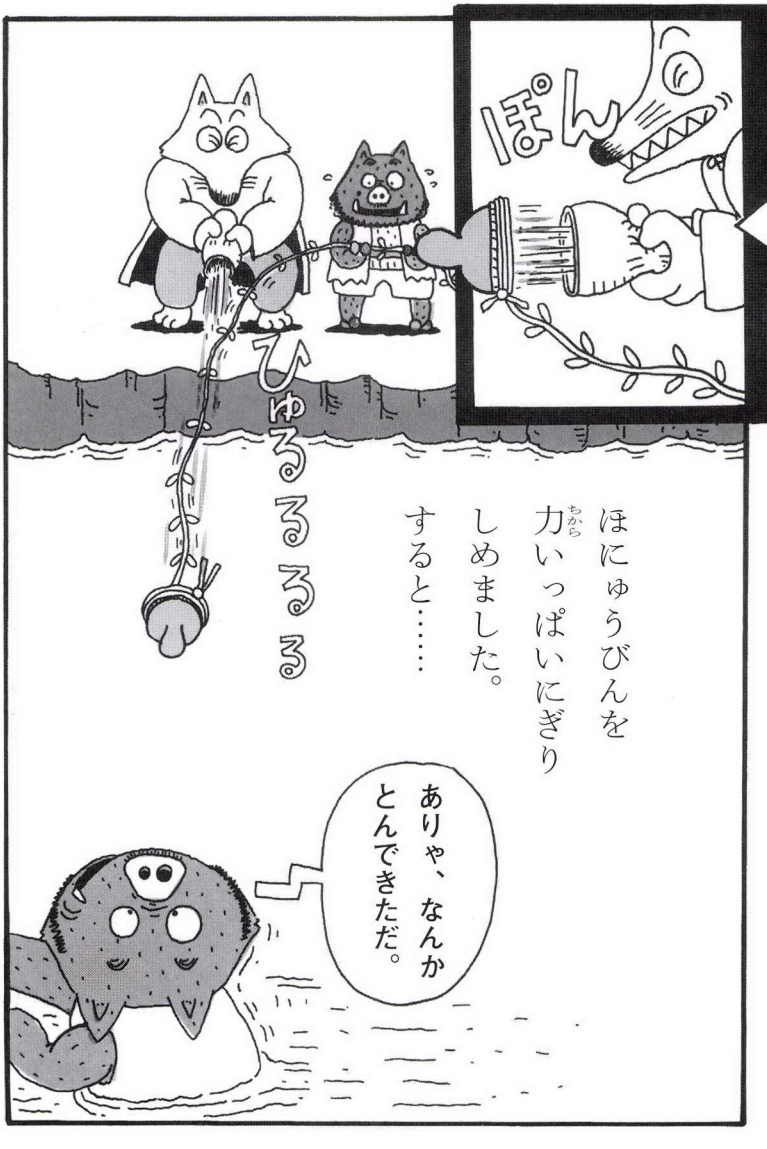
うば車はもう、
滝つぼにむかって、
おちはじめていたのです。
「いそげ、ノシシ。
このツタを力のかぎり
ひっぱるんだ――。」
ゾロリが顔をまっ赤に
して、さけびました。

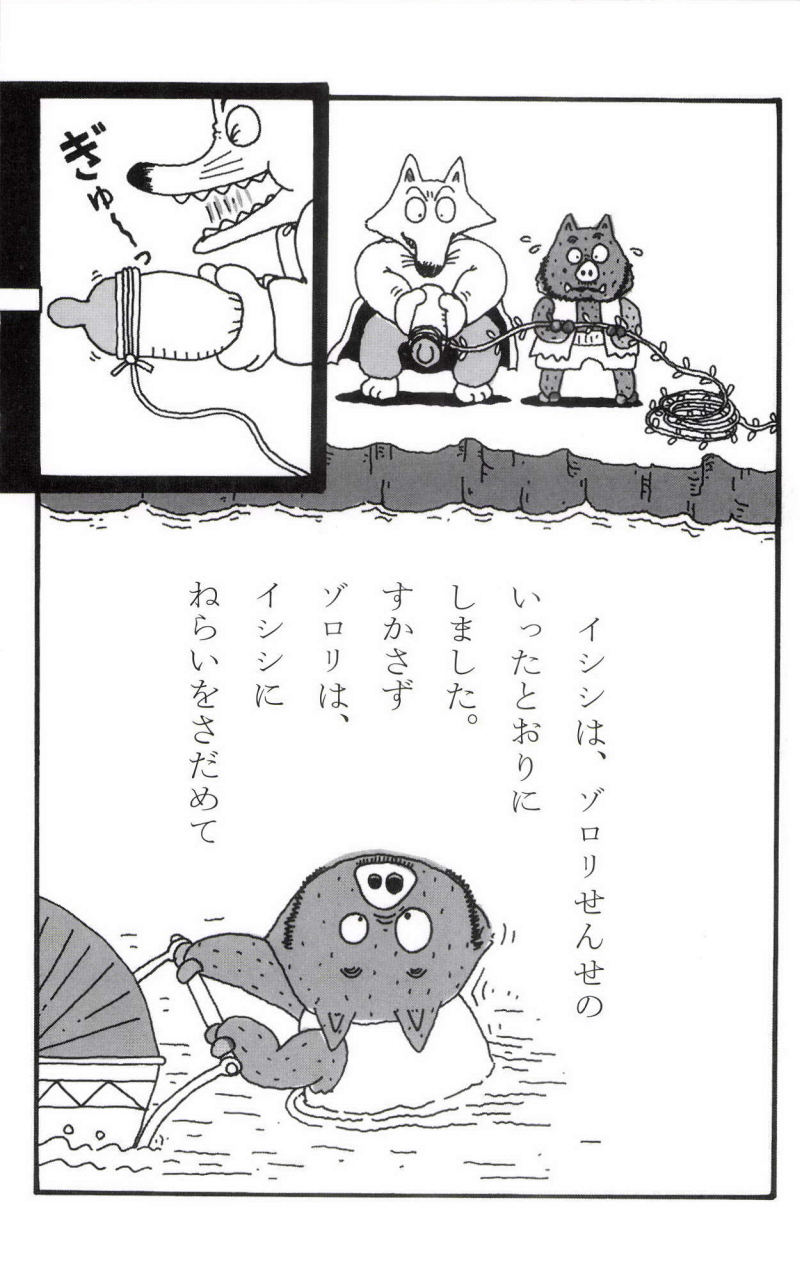


**スポ――ン**

ほにゅうびんの口は、
イシシのはなのあなに、
みごと、めいちゅうです。
だけど、それが
どうしたというのでしょう。




ぽん
ほにゅうびんを
力いっぱいにぎり
しめました。
すると……
ひゅるるるる
ありゃ、なんか
とんできただ。




イシシは、ゾロリせんせの
いったとおりに
しました。
すかさず
ゾロリは、
イシシに
ねらいをさだめて

ゾロリは長いツタを見つけると
ほにゅうびんのさきに、しっかりむすびつけていいました。
イシシ――、うば車をしっかりにぎりしめて、おれさまのほうをむくんだ――。

ゾロリは、ほにゅうびんの
ミルクをちゅうちゅう

のみほしました。

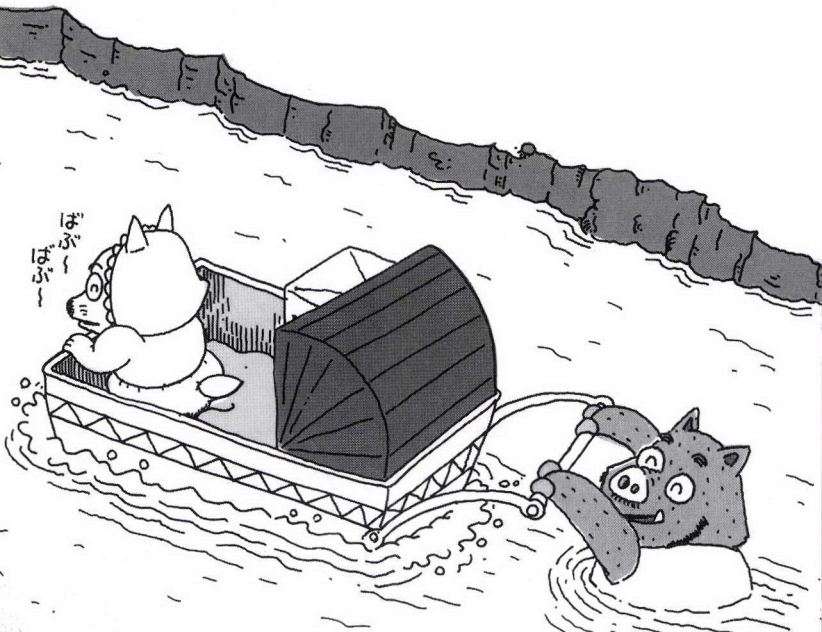
「ゾロリせんせ、おちついてミルクなんか、のんでる場合(ばあい)じゃないだよ。あかちゃんとイシシが、滝(たき)にのみこまれようとしてるだよ。」

「まてまて、あわてるな。」

ぎゅ〜っ
「こ、これは、こまったぞ！」
ゾロリは、手にもっていたほにゅうびんをにぎりしめました。
「そうだ!!」
どどどどどど

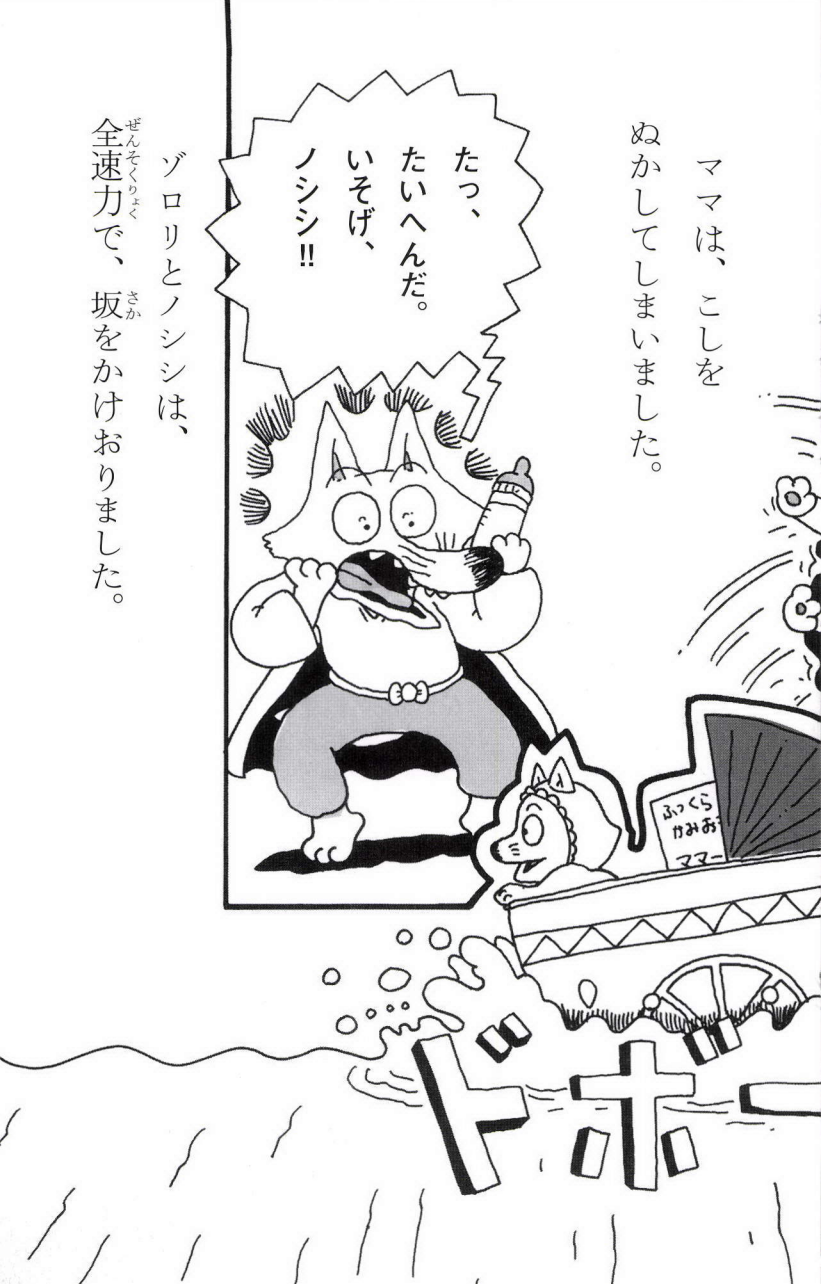
ゴオオオオ――！
大きな滝がまち
うけていたのです。
滝つぼにおちたら、
おぼれるどころじゃ
すみません。

「よかった、よかった。
あかちゃんをおぼれ
させたら、おれさま、
あのママにあわせる
かおがなかったぜ。」
「で、でも、ゾロリせんせ、
あ、あれを見(み)るだ！」
ノシシがゆびさす
ほうには——



ゾロリたちが
川にたどりついた
とき、うば車は、
水にぷかぷかういて
いました。
イシシもぶじに
しがみついています。

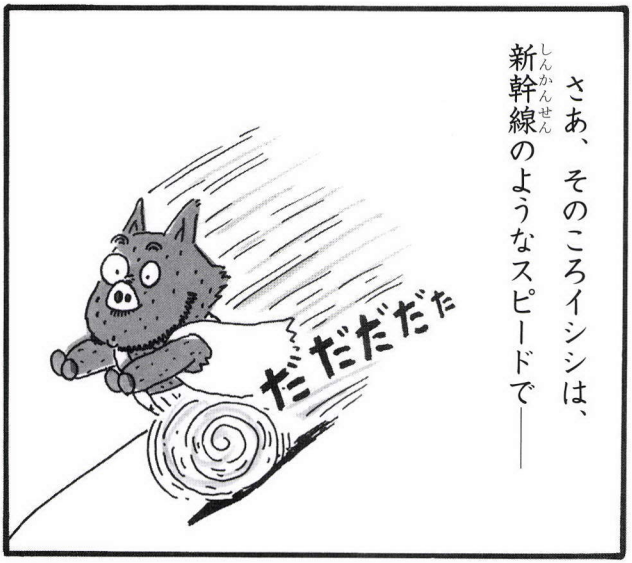
ママは、こしを
ぬかしてしまいました。

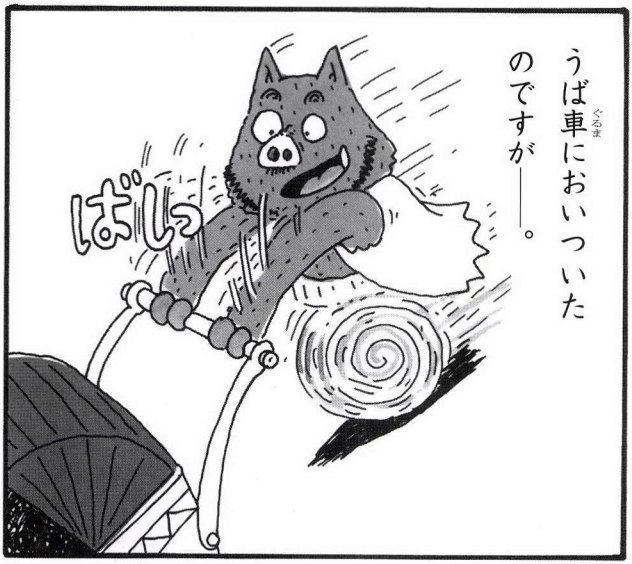



ゾロリとノシシは、
全速力で、坂をかけおりました。

そのいきおいはとめられるはずは
ありません。そのまま、うば車を
おして、川へつっこんで
いったのです。

ゾロリは、ほにゅうびんをうけとりました。



ママは、またなみだがあふれてきました。
「わかった、わかった。おれさま、ママのなみだにゃ、よわいんだ。このゾロリさまが責任をもって、あかちゃんをママのもとへとどけてやるから安心しな。」
「ありがとうございます。もしできれば、このミルクも、あの子にのませてやってくださいな。」
「おやすいごようさ。」

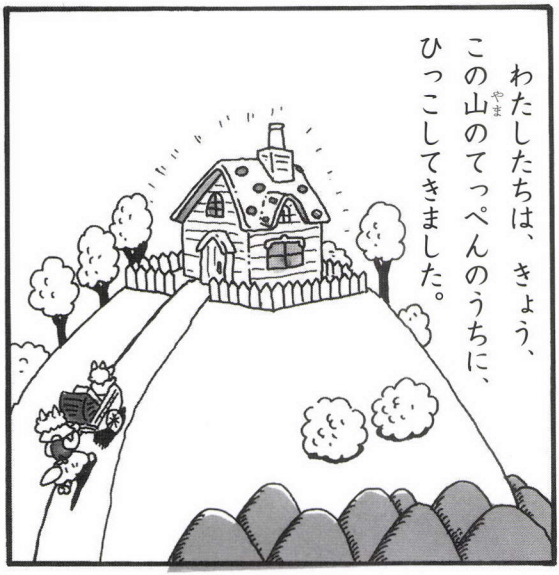
パパがひっこしにもつをはこんでくるのを
まっていたときです。あかちゃんにミルクを
あげようと、ちょっと目をはなしたすきに――

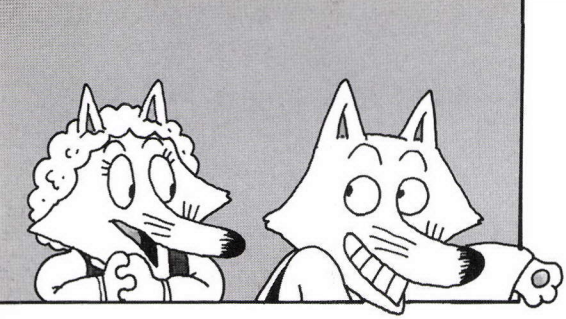
あっ、ぼうや。

うば車が、
坂をころがり
はじめていたんです。

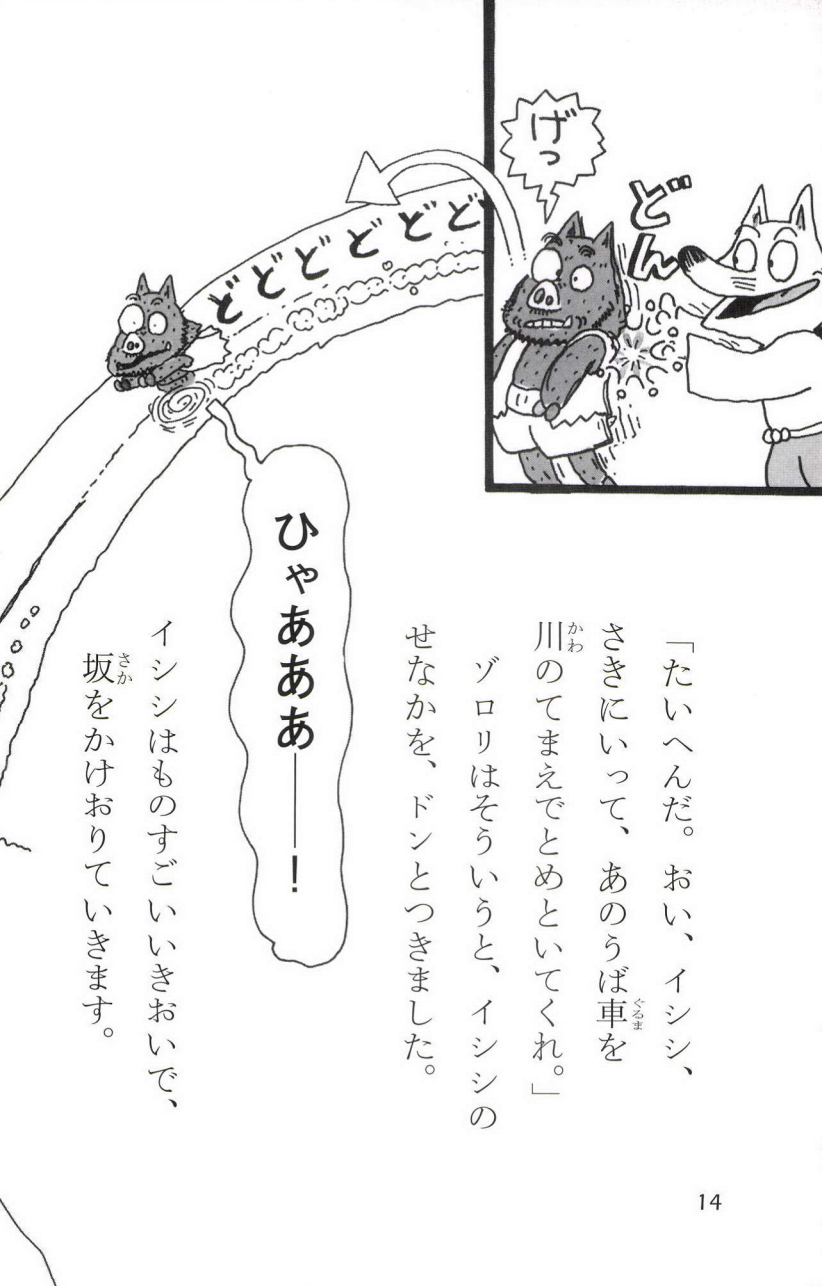
こんなことになる
なんて。わたし、
わたし、ウエーン！

ママはほっとして、なぜこんなことになって
しまったのかを話しはじめました。





「あいつは、
おれさまの子分でね。
足がめちゃくちゃに
はやいのさ。かならず、
川におちるまえに、
うば車においつくから、
安心しな。」
「ほんとね。あのスピードなら、
だいじょうぶね。」

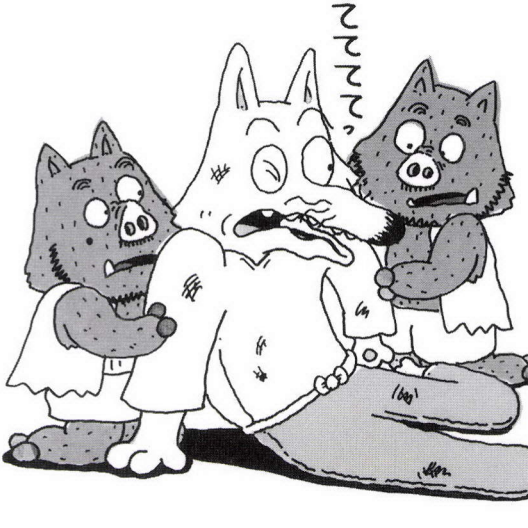



「たいへんだ。おい、イシシ、さきにいって、あのうば車を川のてまえでとめといてくれ。」

ゾロリはそういうと、イシシのせなかを、ドンとつきました。

イシシはものすごいいきおいで、坂をかけおりていきます。

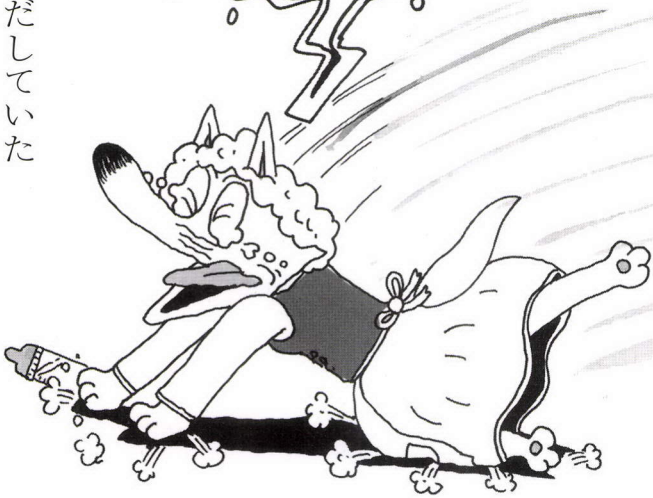
ゾロリが、ほうっておける
はずはありません。
「あきらめるのは早いぜ。
このゾロリさまが、あかちゃんを
ぶじにあなたのもとへつれ
かえってあげるさ。」
「でも、いそがなくちゃ。
この道は、大きな川にむかって
いるのよ。このままでは、わたしの
あかちゃんが、おぼれてしまうわ……。」



おいかけてきたあかちゃんのママは、
ゾロリたちのまえで泣きくずれました。

ああ、もうわたしの足では
おいつかないわ。ちょっと目を
はなしたすきに、こんなことに
なるなんて、わたしは
だめなママ。ばかなママ。
うわーん。

ついさっきまで、やさしいママを思いだしていた



だいじょうぶだか、ゾロリせんせ。
ゾロリをペチャンコにしてとおりすぎていったのです。
ふくろ
かみおむつ
ママーポー

でもうば車は、よほどいきおいがついていたのでしょう。

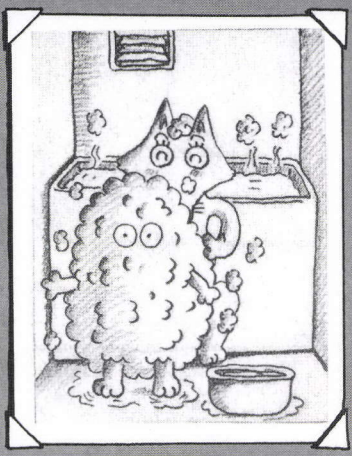
ゾロリたちは、よこにならんで、
手をまえにつきだし、こしを
ぐっとふんばりました。

山の上から、ものすごい
いきおいで、うば車が
こちらにむかって
ころがってくるのです。

ゾロリのかなしい歌をきいて、
イシシもノシシもなみだぐんだ、そのときです。
「だれかー、たすけてー。」

おやっ、どうしたんでしょう。いつもとちがって、
ゾロリがかなしい歌をうたって、登場しましたよ。

# かいけつゾロリのママだーいすき



ママとおふろ
あわのなかにいるのが
おれさまだ。

けんかで まけたとき
やさしく なぐさめて
くれたママ。

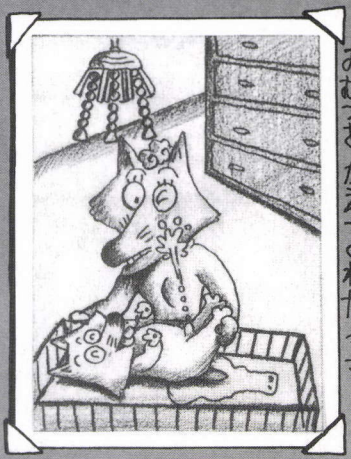
サンタクロースに ばけた
ママ。

おれさまのパパは
どこにいるのかって？
パパの話は、まだ
ひみつなんだ。
いつか、きみたちに
話をするときが
くるだろうぜ。

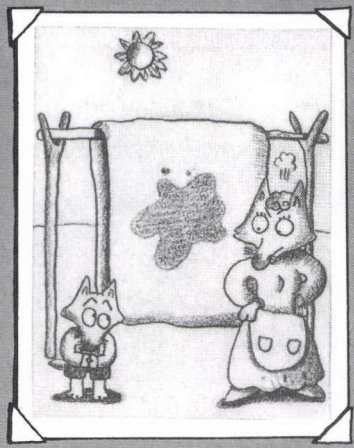
# ☆おまけページ・1

## かいけつゾロリ ママとの思い出アルバム

七五三。このころから
かいけつゾロリのかっこうをしていたぞ。



おむつを かえてくれた ママ。



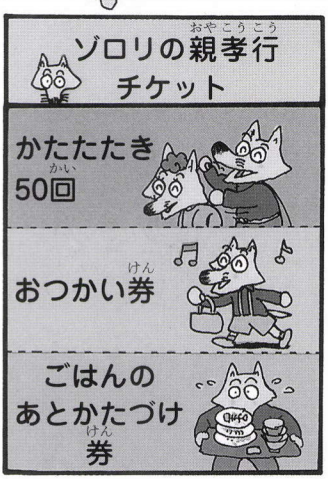
あまり おもいだしたくない おもいで。

たんじょうびのママのてづくりケーキ。

# かいけつゾロリのママだーいすき

おれさまのように
ママがいなくなると
もう、親孝行も
できなくなるって
知ってるか。

みんなは、下の
券をママに
あげて、
おてつだい
してあげろよ。
ママよろこぶぜ。


ゾロリの親孝行
チケット
かたたたき
50回
おつかい券
ごはんの
あとかたづけ
券

ゾロリ 2 in 1

# かいけつゾロリの ママだーいすき 大かいじゅう

作・絵　原　ゆたか

ポプラ ポケット文庫

ゾロリ２in１

# かいけつゾロリの ママだーいすき 大かいじゅう

作・絵　原 ゆたか

2in1